文化財調査報告書

平成15年度

前橋市教育委員会

第34集

序

文化財は、我が国の長い歴史のなかで生まれ、今日の世代に守り伝えられてきた貴重な文化遺産です。このような文化財を後世に守り伝えていくことは、私たちに課せられた責務であると言われていますが、近年は保存継承するだけではなく現代に活かすことが求められています。文化財には先人のすぐれた技術や知恵が詰まっており、これに学ぶことはまさに「故きを温ねて新しきを知る」ことであり、文化的向上をもたらす礎になるものだと考えます。

文化財の保存と活用は、文化財保護行政の要であり、この両者のバランスの上に立って進めていくことが大切です。これまで、保護・保存に重きを置いてきた傾向がありますが、一方に偏ることなく、活用にも力を入れることが求められています。活用の第一歩は、文化財を知ることであり、親しむことだと考えております。

本市教育委員会では、このような時代のニーズに合わせて、文化財の活用にも力をいれ、整備された史跡等を活用した古代体験学習、市内にある文化財を見学する文化財探訪、前二子古墳石室保存修理の様子を見てみてもらう現地説明会等を実施しました。いずれも好評を博し、多くの参加者や見学者がみられ、文化財に親しむ良い機会となりました。これからも、さまざまな創意工夫を凝らし、文化財の活用の在り方を模索し、その実践に結びつけられるよう努力していく所存でおりますので、市民の皆様方のご理解ご協力をお願いいたします。

私たちが携わっている文化財保護の仕事を紹介する本書は、埋蔵文化財発掘調査の結果を含めた文化財保護の事業概要をまとめたものです。この報告書が皆様方の文化財に対する理解を深め、より一層の保存・活用に向けての契機となれば幸いです。

最後に、本市の文化財保護行政を進めるにあたり、ご指導ご協力いただいた関係各位、並びに諸機関に心から御礼申し上げます。

平成１６年１１月

前橋市教育委員会

教育長　中澤　充裕

目 次

序

Ⅰ　文化財調査委員による調査 ---------- 1

1　光運寺の調査 ---------- 1

2　「萬代橋」錦絵の調査 ---------- 2

3　旧安田銀行担保倉庫（現協同組合前橋商品市場倉庫）の調査 ---------- 3

4　樹木調査 ---------- 3

Ⅱ　追加指定文化財紹介 ---------- 4

Ⅲ　文化財保護事業 ---------- 5

1　保護管理運営事業 ---------- 5

2　整備事業 ---------- 8

3　普及事業 ---------- 9

4　調査事業 ---------- １２

5　埋蔵文化財発掘事業 ---------- １３

6　遺跡台帳整備事業 ---------- ２１

7　埋蔵文化財資料整備事業 ---------- ２１

8　山王廃寺等保存整備事業 ---------- ２２

9　大室公園史跡整備事業 ---------- ２３

あとがき

Ⅰ　文化財調査委員による調査

1 光運寺の調査

光運寺は前橋市上細井町869に所在する天台宗の寺院で、細井山真了院と号し、阿弥陀如来を本尊として祀っている。当寺院の仏像や石造物等を中心に、前橋市文化財調査委員による調査を平成15年10月20日に実施した。調査の概要は以下のとおりである。

調　査　物　件　一　覧

番号	種　別（名　称）	材　質	法　量	備　考
1	薬師如来坐像	木	後背高　60ｃｍ 後背幅　46ｃｍ 像高　42ｃｍ 頭部長　15ｃｍ	厨子のなかに安置されている。薬壺がなくなっているため印相からは釈迦如来とみられる。
2	十二神将像	木	（巳神将） 全高　52ｃｍ 像高　42ｃｍ 台高　10ｃｍ 頭部長　12ｃｍ 顔面長　5ｃｍ 肩幅　12ｃｍ	十二神将像が12体揃っている。
3	本堂天井画	杉板	一枚の板の大きさ 73×71ｃｍ 絵廻部分 円形　径63ｃｍ 36枚の板絵	格天井　天井画６枚×６枚　36絵 各絵には異なった龍が描かれている。 「白木之上丹同書　藤原陽史画」の銘と朱の花押がある。狩野派の流れを汲む在方の絵師によるものと思われる。江戸期の作品と推定される。
4	板碑	石	長さ　69.5ｃｍ 上幅　20.0ｃｍ 下幅　21.0ｃｍ 厚さ　2.7ｃｍ	キリーク（ 長さ　9.5ｃｍ ） 蓮華座なし 室町時代
5	板碑	石	長さ　77.0ｃｍ 上幅　21.2ｃｍ 下幅　23.0ｃｍ 厚さ　3.0ｃｍ	キリーク（長さ　13.5ｃｍ） 蓮華座あり（幅　9.5ｃｍ） 南北朝
6	板碑	石	長さ　78.5ｃｍ 上幅　19.0ｃｍ 下幅　23.0ｃｍ 厚さ　2.8ｃｍ	キリーク（長さ　18.0ｃｍ） 蓮華座あり（幅　12.0ｃｍ） 南北朝

これらの他に中世の五輪塔２基を確認した。

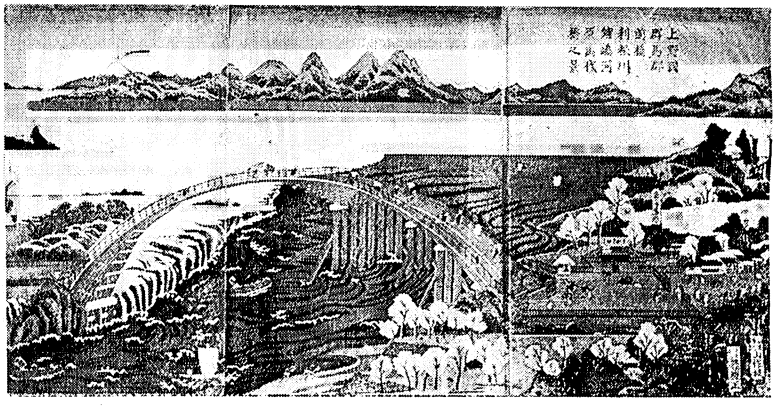
2　「萬代橋」錦絵の調査

安政５年(1858)、前橋藩により旧来の渡船場に、中央部には橋脚を使わないアーチ式の刎橋（はねばし）が架けられた。前橋町民が万代までと願いを込めて命名したこの橋も、文久３年(1963) ８月９日の暴風雨により流失した。しかし、優美な曲線を描いたこの橋は、人々の目に新鮮に映ったとみえ、これを題材にした錦絵が描かれた。現在、３種類が確認されており、今回は、そのうち、２種類のものを平成15年11月12日に調査した。いずれも、個人の所有のものである。

（１）「萬代橋」錦絵

大きさ　縦36.4cm×横71.4ｃｍ

概　要　３枚の刷絵を貼り合わせたものである。この絵には、「上野国群馬郡前橋利根川嶋河原萬代橋之景」と書かれている。



また、絵の右端には、前橋横町山作板と下野足利彫摺師板正とあり、左端には前橋細沢岡國板と群馬日本良齋画とあり、彫摺師、版元及び絵師がわかる。

絵の中央部には、アーチ式の刎橋が描かれ、橋の上には往来する人々がみられる。橋のたもと左岸には、番所（大渡関所）が置かれ、その周辺には桜が咲いている様子が描かれている。川には、下っていく筏や流れに逆らって上流のほうに進む帆を張った曳舟がみえる。榛名山、浅間山、妙義山の山々が遠景として描かれ、浅間山の頂上部からは、噴煙がたなびいている。

江戸時代末期の利根川にかかる様子を知る歴史的資料としても貴重なものといえる。

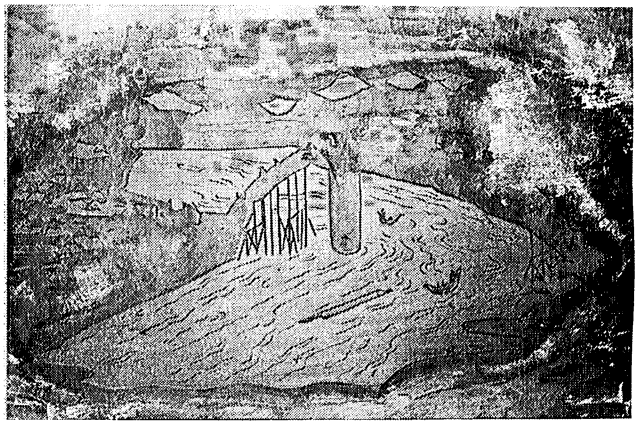
（２）「萬代橋」錦絵（別版）の版木

大きさ　縦25.8ｃｍ×横34.8ｃｍ（版木）　縦22.1ｃｍ×横32.6ｃｍ（絵～隅寄せから隅寄せまで）

枚　数　７枚

材　質　桜の木

概　要　現存している版木は７枚であるが、本来は８枚１組となるもので、１枚欠損している。版木の状態としては虫に喰われた形跡（小さな穴）が見受けられるものもあるが、比較的良好であるといえる。



この絵には「上野前橋敷島河原萬代橋之景」と書かれている。

一椿斎芳輝画と彫られていることから、絵師がわかる。一椿斎芳輝(1808～1891)は、江戸日本橋高砂町に生まれ、高崎の旅宿田中モヨの婿養子となり、谷文晁や歌川國芳に学んだ。高崎では、19世紀の三大画人のひとりに数えられる。

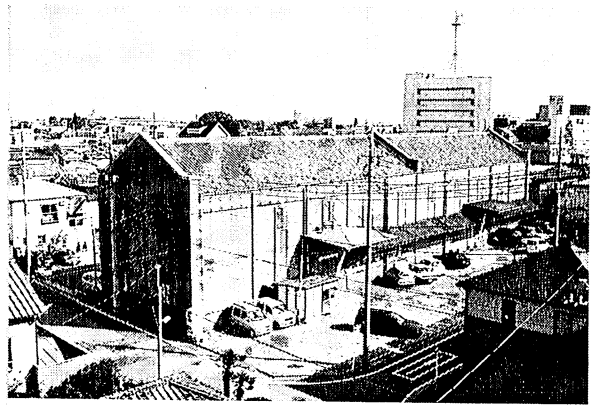
絵の構図は、アーチ式の優美な曲線を強調した萬代橋を中央に据え、榛名山、浅間山を背景に利根川の流れを描いた(１)のものに似ている。

3　旧安田銀行担保倉庫（現協同組合前橋商品市場倉庫）

前橋市住吉町2-10-2に所在する近代化遺産の一つともいうべきレンガ倉庫である旧安田銀行担保倉庫（現協同組合前橋商品市場倉庫）を、平成15年11月12日に調査した。この建造物は、平成6年8月～平成7年2月にかけて本教育委員会が、文化財建造物保存協会に委託して調査しており、その後現在に至るまでに改築等による変更があったのかどうかを中心に調査を実施した。

建設年代　　大正２年（1913）
構造・形式　　レンガ造２階建・切妻造り、瓦葺
及び大きさ　　建築面積　　693㎡
特　　徴　　本倉庫は、貸付金の担保物件（主に繭、生糸）用倉庫として、大正２年に竣工したものである。桁行30間（54.54m）、梁間６間（11.05m）　の大規模のレンガ倉庫といえる。レンガはイギリス積で、上敷免製ののの刻印のあるものが使用されている。

創建当初からほとんど改築されないままで現在にいたっており、製糸業が盛んであった前橋の歴史を語る貴重な近代化遺産である。



4　樹木調査

市内にある貴重な樹木・巨樹などについて基礎的なデータを整備するため、平成15年10月16日に調査を実施した。調査結果の概要は以下の通りである。

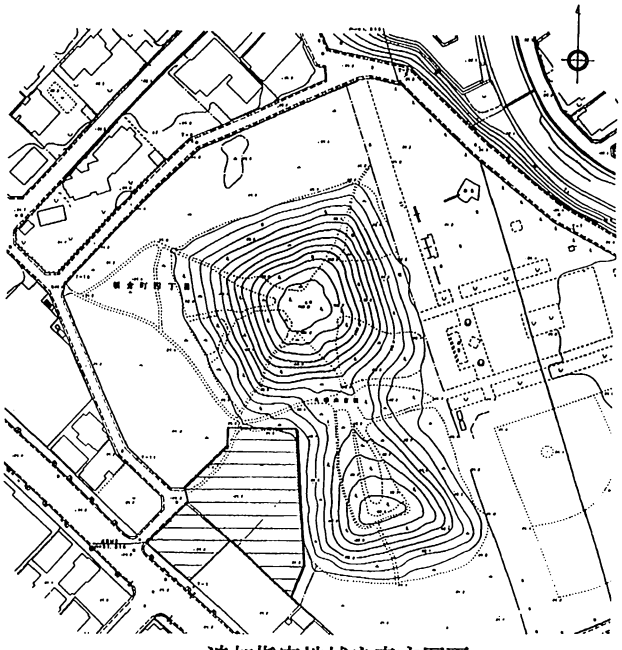
調　査　結　果　概　要　一　覧

番号	名　称（通　称）	所　在　地	樹　高	目通り周	備　考
1	上佐鳥町の一本杉	上佐鳥町442	16.0m	2.19m	樹勢は比較的旺盛であるが、西面に落雷の跡があり、その部分に虫害がみられる。
2	近戸神社のケヤキ（東）	筑井町1156 近戸神社	21.0m	4.70m	樹勢は旺盛である。枝の一部が切断されている。
	〃　ケヤキ（西）		21.5m	3.35m	樹勢は旺盛である。
3	永明小学校のイチョウ	上大島町655 前橋市立永明小学校	18.0m	3.08m	校庭にあり、樹勢は旺盛である。樹冠幅は大きく、東西方向に17.5m、南北方向に18.9mある。
4	雀神社のクマヤナギ	青柳町975-2 雀神社	根元周が28ｃｍで、１本の幹（蔓）が２本に分岐し、その一本が地面に触れたところから根を張り、幹（蔓）が太くなっているため、一見２本のクマヤナギがあるようにみえる。		
5	群馬大学教育学部附属小学校のクスノキ Ⅰ	若宮町2-8-1 群馬大学教育学部附属小学校	23.5m	2.28m	Ⅰ～Ⅴのクスノキが南北方向に一列に立ち並び、Ⅵのクスノキが、一歩前へ出るかのようにまとまって生育しているため、樹冠が大きくひとまとまりになっているようにみえる。最大のものはⅢである。樹冠幅は南北37mに及ぶ。
	〃　Ⅱ			2.06m	
	〃　Ⅲ			3.57m	
	〃　Ⅳ			2.67m	
	〃　Ⅴ			2.74m	
	〃　Ⅵ		18.0m	2.39m	
	〃　ケヤキ		20.5m	3.13m	樹勢は旺盛である。
	群馬大学教育学部附属養護学校のクスノキ	群馬大学教育学部附属養護学校	18.0m	3.70m	樹勢は旺盛である。
6	元総社町平井家のクロマツ	元総社町2536	18.5m	2.24m	平井家の庭に生育しており、傘状の樹形をなし、整った姿をみせている。

Ⅱ　追加指定文化財紹介

史跡　八幡山古墳

追加指定地域から墳丘を望む



追加指定地域を表す図面

区　　分	国指定史跡
指定年月日	昭和24年7月13日　文部省告示第159号
	昭和55年3月22日　文部省告示第42号（追加指定）
	平成15年8月27日　文部科学省告示第141号（追加指定）
所 在 地	前橋市朝倉町４丁目
所 有 者	前橋市ほか
管 理 者	前橋市
概　　要	

この古墳は全国的にも数少ない前方後方墳であり、遺存状態も良い。墳丘規模は実測図からの数値で、主軸全長129.5m、後方部幅69.0m、高さ12.1m、前方部幅55.5m、高さ8.1mと東国最大の規模である。部分的に葺石が確認されていて、墳丘裾部に川原石を38度ほどの角度で葺き上げている。この根石までの深さは現地表から0.8mである。

埋葬施設に関しては未だはっきりしたことは判明していない。後方部墳頂部に乱堀した痕跡があり、大正５年頃に村人により掘られたと言い伝えられている。墳頂面の下1.5mの深さに長さ数mの玉石敷きの部分があり、一部分には粘土を詰めてある箇所も数カ所あったようである。

この古墳は、昭和24年に国の史跡に指定された。本史跡が存在する地域で昭和41年から土地区画整理事業が実施されるに伴い、発掘調査を実施し、周堀部分を含めた古墳の範囲が確認された。その調査を受け、遺構の保存のために昭和41年から昭和44年にかけて周堀を含めた土地の公有地化が図られた。昭和55年には、隣接する八幡山公園の一部を含む周堀部分が追加指定となった。

今回追加指定された部分は既指定地の隣接地であり、平成10年に前橋土地開発公社が買い上げた。この部分について、平成11年に試掘調査を実施し、平成14年に範囲確認調査を実施した。この調査の結果、周堀部分にあたると立証され、平成15年1月に追加指定申請をし、平成15年8月27日付け文部科学省告示第141号で追加指定となった。

Ⅲ　文化財保護事業

1　保護管理運営事業

(1)国有文化財管理

国指定史跡の（総社）二子山古墳と（天川）二子山古墳は、それぞれ地元の山田信久さんと堀口和四郎さんを国有文化財監視人として依頼し、日常管理を実施した。

また、除草・清掃作業等については、（総社）二子山古墳を地元の総社地区史跡愛存会が、（天川）二子山古墳を前橋市連合青年団が実施した。

(2)国・県・市指定文化財管理

市内には、国指定文化財が21件、県指定文化財40件、市指定文化財114件があり、合計175件の指定文化財がある。なお、区分については、下表の通りである。

各文化財には、標柱や説明板を設置してあるが、これらの設置状況や状態について確認調査を実施した。

また、15年度は市指定史跡12件、市指定重要無形文化財8件、市指定重要有形民俗文化財4件、市指定重要無形民俗文化財3件、市指定天然記念物7件の管理状況調査を実施した。

①指定区分文化財管理　　（平成16．4．1）

区分／種別	重要文化財	史跡	天然記念物	無形文化財	民俗文化財	重要美術品	合計
国指定	3	11	1	0	0	6	21
県指定	34	5	0	0	1	0	40
市指定	73	18	7	8	8	0	114
合　計	110	34	8	8	9	6	175

②時代区分別文化財　　（平成16．4．1）

指定別（件数）／時代別	国指定	県指定	市指定	合計	
				件数	割合%
天　然	1	0	7	8	4.6
原　始	1	0	0	1	0.6
古　代	15	3	17	35	20.0
中　世	2	18	33	53	30.3
近　世	2	15	40	57	32.6
近　代	0	3	1	4	2.2
民　俗	0	1	16	17	9.7
合　計	21	40	114	175	100

(3)史跡等の除草及び樹木処理

市が管理する史跡等について、地元自治会、シルバー人材センター及び業者に除草業務並びに樹木処理業務を委託し、史跡等の環境美化に努めた。

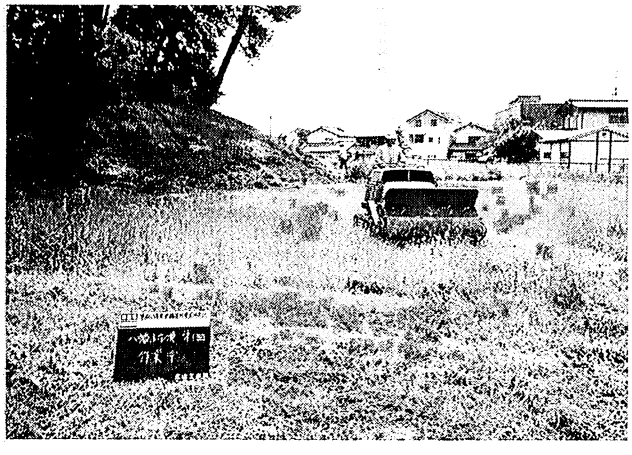
作業を実施した箇所は、次の表の通りである。

除草業務一覧表

	史跡名	区分	所在地	除草延面積
1	亀塚山古墳	市指定	山王町1-28-3	4,968㎡
2	金冠塚古墳	市指定	山王町1-13-3	4,814㎡
3	今井神社古墳	市指定	今井町818	4,624㎡
4	車橋門跡	市指定	大手町2-5-3	954㎡
5	天神山古墳	県指定	広瀬町1-27-7	1,095㎡
6	八幡山古墳	国指定	朝倉町4-9-3	30,000㎡
7	蛇穴山古墳	国指定	総社町総社1587-2	400㎡
8	宝塔山古墳	国指定	総社町総社1606	2,204㎡
9	女堀	国指定	東大室・二之宮・飯土井町	60,386㎡
10	不二山古墳	市指定	文京町3-151-6	1,142㎡
11	荒砥冨士山古墳	県指定	西大室町813-2他	2,700㎡
計				113,287㎡

樹木処理業務一覧表

	史跡等名	区分	所在地	処理内容
1	宝塔山古墳	国指定	総社町総社1606	松伐採1本・南側枝おろし
2	天川二子山古墳	国指定	文京町3-26	東側枝おろし・北側高木1本強剪定
3	総社二子山古墳	国指定	総社町植野368	北側枝おろし
4	旧蚕糸試験場事務棟（前橋市蚕糸記念館）	県指定	敷島町262	松伐採1本・枝おろし1本



除草の様子

(4)松喰虫・アメリカシロヒトリの防除

市が管理する国指定史跡地内の松の木に発生する松喰虫を防除するために、農政課に協力して防除薬散布に立ち会った。また、業務委託により、桜の木に発生する害虫アメリカシロヒトリ等の病虫防除のために、薬剤（ＤＤＶＰ７５乳剤）の散布を行って、史跡の保全管理を図った。

〈松喰虫の防除〉

八幡山、大室古墳群

１回目：5月27日(火)　２回目：6月11日(水)

〈アメリカシロヒトリの防除〉

総社二子山古墳・宝塔山古墳・蛇穴山古墳・天川二子山古墳・大室古墳群

１回目：6月7日（土）　２回目：8月1日（金）

(5)文化財パトロール

市内を６地区に分け、各地区に１名の文化財保護指導員を委嘱し、指定文化財を中心に文化財パトロールを実施した。

文化財パトロールの結果は、月に１～２回程度文化財保護課に報告があり、指定文化財等を管理する上で必要な情報が得られた。また、そのため緊急事態等に迅速に対応することができた。

各地区の文化財保護指導員は、次の表の通りである。

地　区	氏　名	住　所
中　央	福島 守次	天川大島町
総 社・清 里	関口 淳七	総社町総社
東・元 総 社	中島 孝雄	石倉町
上川淵・下川淵	狩野 久夫	西善町
南橘・芳賀・桂萱	栗原 秀雄	荒牧町
城　南	岡野 毅	西大室町

(6)文化財防火査察

「文化財防火デー」に因み、貴重な文化財を火災から守るため、前橋広域消防本部及び（株）東京電力と協力して、次の文化財査察対象物を５班編成で、立ち入り査察を行った。

○文化財防火査察　平成16年1月23日（金）

○文化財消防演習　平成16年1月25日（日）

珊瑚寺：富士見村石井

（１班中央消防署）国認定重要美術品３幅、県指定重要文化財１２幅。前橋藩松平家奉納能装束一式。酒井重忠画像。東福寺鰐口。臨江閣本館、茶室、別館。典籍・前橋藩松平家記録他２件。

（２班中央消防署）神明宮の甲冑。松平藩主画像他１件。旧蚕糸試験場事務棟。上泉郷蔵。八幡宮文書、伯牙弾琴鏡。

（３班西消防署）上野総社神社本殿他。徳蔵寺懸仏、麻本著色両界曼荼羅一対。大徳寺総門、多宝塔。光巌寺薬医門、打敷・油単並びに幡。

（４班南消防署）旧関根家住宅。無量寿寺地蔵菩薩立像、無量寿寺十一面観音立像。二宮赤城神社絵馬、梵鐘納曽利面。産泰神社本殿・幣殿・拝殿・神門及び境内地。慈照院千手観音坐像。円満寺薬師如来坐像。駒形午頭天王の獅子頭一対。旧アメリカンボード宣教師館。

（５班北消防署）日輪寺寛永の絵馬、日輪寺十一面観世音像。前橋藩家老小河原左宮の甲冑付旗差物。鉄造阿弥陀如来坐像。

(7)刀剣の手入れ

本市が寄附受け入れした貴重な刀剣を良好な状態で保存するために、専門的な技術を有する業者に刀剣の手入れを委託した。手入れの実施時期と回数は、９月と３月の年２回であった。なお、刀剣は、温度及び湿度が一定に保たれている施設で保管している。

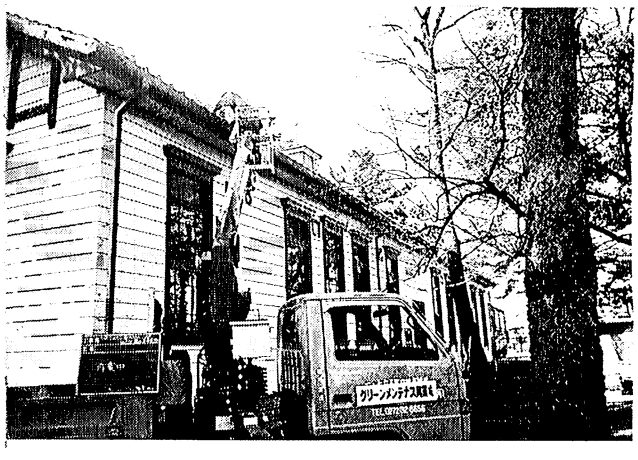
(8)前橋市蚕糸記念館の管理・活用

明治45年国立原蚕種製造所前橋支所の本館として岩神町に建設された建物で、その後製造所は、国の研究機関統廃合のため昭和55年茨城県筑波学園都市に移転した。この建物を国から払い下げを受け現在地に移築保存し、一般公開し活用している。

開館時は、委託しているシルバー人材センターから職員が派遣され、見学者への対応を行っている。また、本館内外の現況及び見学者からの要望等については、派遣職員から情報を得て対応した。

本館内では、養蚕・製糸に関する用具・器械等が展示されていることから、「糸の町」前橋を知る上で一つの学習の場となっている。市内の小学生をはじめ、市外や県外からも多くの見学者が訪れている。

平成15年度の開館日数112日、来館者数は、5,358名であった。



雨樋清掃の様子

(9)総社資料館の管理・活用

平成15年度も総社資料館説明員（総社地区史跡愛存会）の方々に、開館業務及び展示資料の説明等を行ってもらった。

市内及び市外小学校からの団体見学を中心に、各種団体及び個人見学者に対しての案内を行いながら、充実した資料館運営に努めた。

北蔵展示関係では、中央にある立体模型地図を、来館者により見やすくなるよう、今までよりも低い位置に設置した。また、学習室内に宝塔山古墳石棺の実物大模造品を展示した。さらに、展示物がより分かりやすくなるよう、コーナー毎にタイトルパネルを設置した。

西倉展示関係では、展示物を精選し、整理して、分かりやすい展示とした。

平成16年3月2日に、県西毛地域への視察研修を実施した。鬼石町の浄法寺、藤岡市の土師神社、白石古墳群、吉井町の馬庭念流道場、多胡碑記念館、そして高崎市のあかりの資料館を見学した。見学場所の説明員の方々と意見交換をしたり、説明の仕方や展示の仕方を参考にしたりすることで、総社資料館の質の向上や充実、説明員のより一層の資質の向上を図ることができた。

なお、平成15年度の開館日数は247日、来館者数は4,483人であった。

総社資料館北蔵案内の様子

平成15年度もまた、11月22日、23日の２日間にわたり、秋元歴史まつりが実施された。総社資料館もこれに協力し、『昨年度の発掘調査の成果』をテーマに、特別展を実施した。今回は、平成14年度の発掘現場である元総社小見内Ⅳ遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡・総社閑泉明神北Ⅲ遺跡・荻窪倉兼Ⅱ遺跡・堤沼西Ⅲ遺跡・五代伊勢宮Ⅴ遺跡の以上６箇所からの出土品を公開した。

(10)大室公園史跡の管理・活用

大室公園史跡整備事業により、整備が完了した①中二子古墳(中堤埴輪列)②後二子古墳(石室前レプリカ・石室内)③小古墳(埴輪等レプリカ)を一般公開している。これらの史跡の日常管理を行うにあたり、石室入口の鍵開閉や出土遺物を復元展示した史跡の保守・点検・清掃等を行う者を地元から選任して、大室公園史跡管理業務を委託している。

4月～11月まで（月曜日を除く毎日）
12月～ 3月まで（土・日・祝日）

また、史跡を活用した大室公園まつりや小学生・中学生を対象とした古代生活体験学習（埴輪づくり・弓矢づくり・火おこし）等が行われ、史跡を訪れる見学者が年々増加傾向にある。これら見学者に利便を図り快適な環境を提供するとともに史跡を保護するため、大室公園内の４古墳、全体模型及び古代住居の各エリアの6箇所を業者委託により年間6回の除草を実施している。

	史　跡　名	所 在 地	除草延面積
1	前二子古墳	東大室町1501	36,000㎡
2	中二子古墳	東大室町1501	96,000㎡
3	後二子古墳	西大室町	30,000㎡
4	小　古　墳	2616-1他	12,000㎡
5	全体模型エリア	西大室町2516	12,000㎡
6	古代住居エリア	西大室町2510	1,842㎡
計6カ所			187,842㎡

(11)大室公園民家園の管理・活用

平成14年度大室公園史跡整備事業の進捗により、大室公園史跡管理事業が平成15年度には、４古墳を中心とした史跡管理と民家園管理に分けられた。

民家園は、民家保存会という地元の組織に管理運営を委託している。平成15年度民家園入園者も記帳者だけでも8,230名となっている。これは、平成14・15年度に行われた大室公園まつりにより、さらに多くの人々に知られるようになったためと思われる。また、利用団体も増えている。

活動状況としては、前年同様南側の畑で、地元の大室小学校の児童と民家保存会の会員とで除草、サツマイモ植え、その収穫やサルビアの苗植えなど、地域に根ざした活動をしている。

また、平成15年4月21日には、三笠宮家のご来園があった。

2　整備事業

(1) 歴史散歩道整備事業

数多く存在する文化財を、広く市民に紹介するために歴史散歩道を設定しております。平成15年度は、文化財の保存と見学者の利便を高めるために次の事業を実施した。

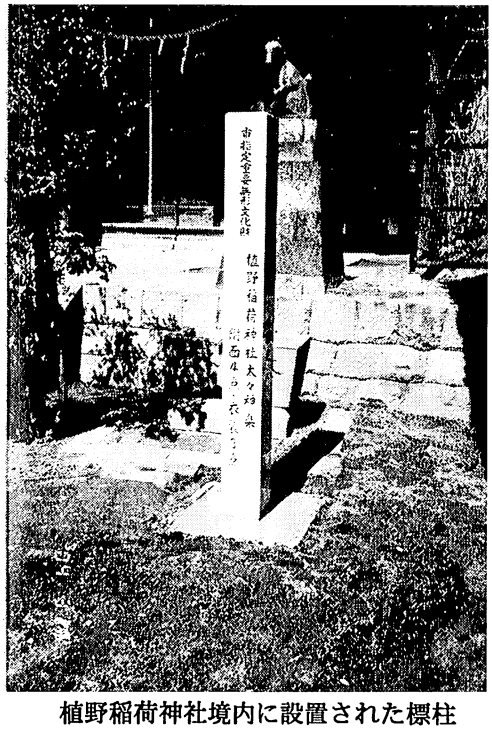
①文化財標柱・説明板設置

平成15年度は、次の指定文化財の標柱の新設を実施した。

※標柱の新設

国指定史跡　女堀（二之宮地区）　　2基

市指定重要無形文化財　植野稲荷神社太々神楽附面4点・衣装3点　　1基



植野稲荷神社境内に設置された標柱

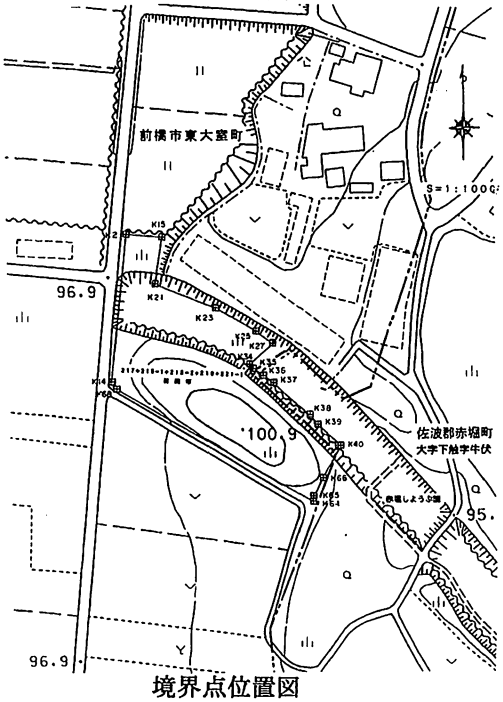
※説明板の新設

国指定史跡　女堀（二之宮地区）　　2基

二之宮地区の女堀に設置された説明板

(2) 史跡境界杭の設置

国指定史跡女堀のうち、東大室地区の史跡範囲を確定させるために、多角測量及び境界点を復元し、関係する土地所有者と境界確定の立会いを行った。今回得られたデータを基に、平成16年度以降に史跡境界杭を埋設する予定。



境界点位置図

(3) 史跡等の公有地化

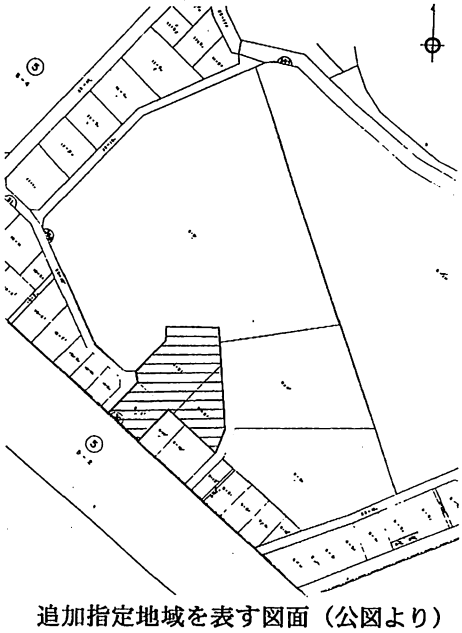
国指定史跡八幡山古墳の周堀部分にあたる土地を国庫補助事業で取得した。

前橋市朝倉町四丁目9番1　宅地　337.74㎡

前橋市朝倉町四丁目9番2　宅地　908.68㎡

前橋市朝倉町四丁目9番5　宅地　427.44㎡

面積計 1,673.86㎡



追加指定地域を表す図面（公図より）

3　普及事業

(1)第２９回前橋市文化財展

・テーマ　『糸の町前橋
　　～近代前橋を支えた製糸業～』
・期　間　平成15年11月8日（土）
　　～11月24日（月）
・会　場　前橋市中央公民館１階ロビー

今回は、近代前橋の発展を担ってきた製糸業に焦点をあて、製糸業に係わる文献や様々な製糸道具などを展示した。製糸業のあゆみや製糸技術の変遷、活気にあふれた前橋町、先人達の功績などを取り上げたため、「糸の町前橋」を知るよい機会になったと考えられる。見学者からは、「当時の様子が思い出され懐かしかった。」などの声が聞かれ、今回のテーマを身近に感じて見学できた方が多かった。

展示に見入る見学者

(2)第２２回前橋市文化財普及講座

文化財展開催期間に、文化財展と同じ、『糸の町前橋～近代前橋を支えた製糸業～』をテーマに２回開催した。１回目は、展示の意図や構成、内容等について展示品を見ながら解説を行った。２回目は、群馬県立日本絹の里で、「まゆクラフト」「手織りコースター」「ストールのむら染め」の体験実習を行った。参加者からは、「お土産ができ、楽しかった。」などの声が聞かれた。今後も体験的な講座を積極的に取り入れ、参加者が主体的に関わることのできるものにしていきたい。

今回の講座の内容は、以下のとおりである

テーマ	講師名	期日
文化財展解説会 ～文化財展の意図や構成～	文化財保護課職員	11/18（土）
日本絹の里の館内見学及び体験学習	日本絹の里職員	11/25（土）

(3)第３１回前橋市郷土芸能大会・第７回前橋広域市町村圏郷土芸能大会

・日時　　平成15年11月29日（土）
　　午後１時～４時
・会場　　前橋市民文化会館　小ホール

前橋市をはじめとする赤城山南麓には、人々の心のよりどころとして守り育てられてきた伝統ある郷土芸能が受け継がれてきた。これらは、どれも地域に根ざしたものであり、人々の生活の様子を伺い知ることができる。

しかし、近年次第に人々の生活から忘れ去られようとしている。そこで本大会は、郷土芸能に対する人々の理解を深め、地域文化の高揚を図るとともに、郷土芸能の保護・伝承を目的に、昭和48年以来、開催されてきた。今回の公演は、広域圏を含む７団体が郷土芸能を公開した。会場には約600人の来場者があり、多種多様の郷土芸能の競演が好評であった。

清野町野良犬獅子舞

郷土芸能の名称	保存会名	所在地
大前田の獅子舞	大前田諏訪神社獅子舞保存会	宮城村大前田
野郎万歳	泉沢町郷土芸能保存会	前橋市泉沢町
若一祭り囃子	若宮町一丁目お囃子保存会	前橋市若宮町
二十二夜様	江田の二十二夜様講	前橋市江田町
二宮赤城神社太々神楽	二之宮町無形文化財保存会	前橋市二之宮町
横室子供祇園囃子	横室祇園囃子保存会	富士見村横室
清野町野良犬獅子舞	野良犬獅子舞保存会	前橋市清野町

(4)文化財愛護作品コンクール

児童生徒の文化財に対する愛護精神を育成するために、文化財愛護作品コンクール(標語と絵画)とその市長賞作品を掲載する文化財愛護ポスター作成を交互に隔年実施している。今年度はコンクールの実施の年として、市内の小中学生を対象に作品募集したところ、474点の応募があり、前回をわずかに上回った。小学校からは25校、中学校からは12校と前回より応募学校数も多くなり、本コンクールが幅広く関心を集めた結果となった。

標語の部　市長賞　　東小５年　　小野里有紀

「光る技　次代へつなぐ　日本の美」

絵画の部　市長賞　　山王小６年　栗原みなみ

夕日のあたる臨江閣

(5)文化財探訪

この事業は、平成15年度から新規に始まったもので、年２回実施した。

第１回目は、市有バスを利用し、平成15年10月21日に、前橋市文化財保護指導員の狩野久夫さんを講師として上川淵地区の古墳を中心に行った。

コースは、天川二子山古墳、八幡山古墳、前橋天神山古墳、亀塚山古墳、金冠塚古墳、飯玉神社及び円満寺でした。

当日の参加者は39名でした。

第２回目は、平成16年3月15日総社神社の太々神楽の奉納日にあわせて、文化財保護指導員の中島孝雄さんを講師として元総社地区を中心に行った。

コースは、総社神社、徳蔵寺、上野国分寺跡、王山古墳、林倉寺でした。

参加者は、36名でした。

(6)郷土芸能映像記録保存

市指定重要無形文化財(郷土芸能)映像記録保存は、次世代への伝承と市民への普及活動を目的として行われている。道具や演技の方法、しぐさ、間合い、一挙一動、声などをも細かく記録するため、ＶＴＲ専門業者に撮影、編集を委託し、永久的な保存を図っていくものである。記録媒体としては、保存するのに適したＤＶＤを採用した。

今年度は、産泰神社太々神楽保存会に依頼し、12月に産泰神社境内の神楽殿で「産泰神社太々神楽」の撮影を行った。撮影は、神楽殿や収蔵庫、小道具から始まり、返陪から山神舞までの12座が行われ、後世に遺すべき映像記録保存にふさわしい完成品となった。

(7)文化財めぐりパンフレット等の作成

市内を６地区に分けた文化財めぐりパンフレットのうち、今年度は「城南地区」「総社・清里地区」の２地区のパンフレットを増刷した。増刷にあたっては、掲載内容の見直しをするとともに、これまでの標語に換え、平成13、15年度の文化財愛護作品コンクールで入賞した標語を掲載した。このパンフレットは希望する市民に配布している。

また、総社資料館のパンフレットも増刷した。

(8)文化財資料の貸出

県内外の博物館・資料館への実物資料の貸出が９件、出版社等への写真資料の貸出が23件あった。

主な実物資料の貸出先は次の通りである。

貸　出　資　料	貸　出　先
前二子古墳出土遺物	高崎市観音塚考古資料館
山王廃寺出土遺物	栃木県立しもつけ風土記の丘資料館
柳久保遺跡出土縄文土器	群馬県立歴史博物館
帆立貝形古墳出土遺物	かみつけの里博物館
東原古墳群出土遺物他	箕郷町教育委員会

(9)各種講座・文化財めぐりへの講師派遣

公民館の主催する文化財講座、地域の歴史愛好会の学習会等の講師として依頼を受け、学習活動への支援を行った。また、小学校の学習会や社会科見学・自治会の史跡めぐりの講師として、整備が進んでいる大室公園を中心に、蚕糸記念館、臨江閣等の案内・説明を行い、受講者や参加者の文化財への関心や理解を深めることができた。

(10)文化財保存団体等への助成

地元に残る文化財の説明板の設置を通して、見学者などに便宜を図っている団体、郷土芸能の継承に力を尽くしている団体に、補助金を交付した。補助金を交付した団体は次の通りである。

・総社地区史跡愛存会
・前橋市郷土芸能連絡協議会

(11)指定文化財の保存修理（補助事業）

①県指定重要文化財上野総社神社本殿保存修理事業

総社神社の本殿は、昭和38年9月に県重要文化財に指定され、昭和60年1月から昭和61年7月までの1年7か月をかけて全面的な保存修理を行い、安土桃山時代の創建当時の姿に復元された。

その後、約17年経過したが、長年の風雨により柿

葺屋根が腐食し、雨漏り等が懸念される状態となっていた。また、本殿向拝浜縁土台、浜縁高欄及び透塀土台部分等も腐食が激しく早急な修理を必要としていた。

以上の現状から、本殿の保存に万全を期すため、群馬県及び前橋市から文化財保存事業として補助を得て8月8日着工、10月10日に完成となった。

なお、主な修理内容は、以下の通りである。

- 本殿向拝屋根の補修は、単管本足場及び仮設屋根を設置し、屋根南側の先端部分を中心に腐食した柿を取り除き、新しい椹材の柿で葺き替えを行った。
- 本殿向拝浜縁土台及び束並びに浜縁高欄の架木及び斗束の補修は、腐食部分を解体撤去し、桧材で復元した。
- 東くぐり戸付近の透塀土台部分等の補修も、腐食部分を解体撤去し、桧材で復元した。
- 桧材での補修箇所は、日光塗師による弁柄漆塗を施した。

② 県指定重要文化財臨江閣本館及び茶室(本館)保存修理事業

臨江閣本館は、明治17年に群馬県や前橋の迎賓館として建てられた建物で、昭和61年3月に県重要文化財に指定され、昭和62年11月から平成2年12月までの3年余りをかけて全面的な保存修理を行った。

その後、約13年経過したが、長年の風雨により柿葺屋根の部分に損傷や柿のはがれが生じ、雨漏りが懸念される状態となっていた。

以上の現状から、本棟の保存に万全を期すため、群馬県から文化財保存事業として補助を得て平成15年11月5日着工、翌年3月5日に完成となった。

なお、主な修理内容は以下のとおりである。

- 柿葺屋根のある本館南側を中心に単管本足場を設置し、既存の柿葺の上から杉材の野地板を張り、その上に防水用のアスファルトルーフィングを敷き詰めた。
- 作業中柿葺の旧野地板に腐食箇所が発見されたため、杉材での追加補修を行った。
- 厚さ0.3㎜の銅板を加工し、八つ切一文字葺で、柿葺屋根を銅板に葺き替えた。
- また、既存の柿葺屋根の上に銅板葺屋根を載せたことにより、屋根の高さがかさ上げされ、雨樋の位置を調整する必要が生じたため、樋の改修工事を追加した。

(12)大室公園古代生活体験学習

大室公園内にある、前二子、後二子、中二子、小二子の４古墳、赤城型民家を中心とする民家園で、古代生活の様々な体験をすることを目的に行われた。また、公立の小・中学校において完全週５日制となり、それに対応する事業でもある。

実施内容は次の通りである。

回数	期　日	内　　容	参加数
1	６月21日 (土) 9:45～ 16:00	・まが玉づくり ・古墳オリエンテーリング	１０４人 午前59人 午後45人
2	８月２日 (土) 9:45～ 12:30	・飾り用弓矢づくり ・弓矢で的あて	７１人 保護者11人を含む
3	10月18日 (土) 9:45～ 12:30	・馬形はにわづくり	４８人
4	11月１日 (土) 9:45～ 12:30	・火おこし ・弓ギリ式火おこし器づくり	３８人

＊小学４年生から中学３年生を対象に実施した。弓矢づくりでは保護者も参加した。

＊5月3日（土）に開催された大室公園まつりではまが玉づくりを実施した。

(参加数は１３０名)

この活動も古代生活体験事業の一環として位置づけ、平成15年度は計5回を実施した。

＜参加者の感想＞

- 「まが玉の作り方やはにわの種類が、よく分かった。」　－６年生　女－
- 「弓矢づくりはとっても楽しく、黒耀石の黒さにおどろいた。」　－４年生　男－
- 「はにわは、粘土でできていることを初めて知った。」　－４年生　男－
- 「昔の人は、こんなにも苦労して火をおこしていたことを知った。」　－６年生　女－

馬形はにわをつくる参加者

4　調査事業

近代化遺産の状況調査

市内に点在する製糸工場やレンガ倉庫などの近代化遺産が老朽化に伴い、取り壊されるなどして姿を消していることから、その状況の調査を実施することとした。

(1)趣旨

産業構造の変革等により、近代化遺産ともいうべき建造物が取り壊しや改変されており、これらの実態を把握し、その基礎資料を収集する。

(2)期間

平成15年9月1日～平成16年3月31日

(3)調査対象

平成2、3年度に実施された群馬県近代化遺産総合調査の結果、リストアップされた74件と他１件の計75件の物件。

(4)調査員

文化財保護課職員

(5)調査方法

文献その他の資料からの調査、所有者及び関係者等から聞き取り調査を実施するとともに、現況の写真撮影を行い、記録保存を図る。

(6)調査の経過

＜1次調査＞

○各物件の有無の確認をした。

○各物件の所在地、所有者氏名、所有者住所、概要（建設年度、大きさ、用途、構造）を確認した。特に、県道・市道に架かる橋については、関係機関の協力を得て建設年度や建設当時の図面等の確認を行った。また、駅舎及び鉄道沿線の橋梁については、所有又は管理している企業の協力を得て、建設年度や構造等の確認を行った。

＜調査の結果＞

○現存している建造物は52件であった。その内訳は以下の通りでである。

・指定又は登録文化財　9件
（県指定3件、市指定1件、国登録5件）

・国登録文化財に申請中のレンガ倉庫　1件（H16.7.23登録済）

・橋梁 10件　・レンガ倉庫　6件
・工場　5件　・作業所　4件
・店舗　3件　・医院　2件
・駅舎　2件　・寺院、レンガ塀、発電所跡、蚕種屋、養蚕農家、煙突、水道、給油器、自転車、ラジオ塔　各1件

※10件ある橋梁の内、市外に所在する橋梁であることが判明した物件が1件あった。

○建造物が取り壊されたりしてなくなっている物件が23件あった。その内訳は以下の通りである。

・工場　6件　・橋梁　4件　・作業所　3件
・倉庫　3件　・店舗　2件　・医院　2件
・庁舎、煙突、水道施設　各1件

＜2次調査＞

○1次調査の結果を踏まえ、再調査が必要な25件について、沿革、構造等の聞き取り等による１次調査の確認と保存状態の調査及び内部写真の撮影等を行った。

＜2次調査対象物件＞

・レンガ倉庫	6件	・店舗	4件
・工場	3件	・作業所	3件
・医院	2件	・駅舎	2件
・レンガ塀	1件	・煙突	1件
・寺院	1件	・蚕種屋	1件
・養蚕農家	1件		

＜調査の結果＞

○保存状態も比較的良好で現在も有効活用されているものが多いが、老朽化のため、傷みが進行している物件も見られた。

○補修を施しながら丁寧に利用してきたため、外観の美観を損ねていない物件があった。

○工場の移転に伴い、解体予定の物件が確認された。

○所有者のほとんどは、近代化遺産ともいうべき建造物を持っていることに強い誇りを感じており、今後もできるだけ保持していきたいと考えていることが分かった。

前橋市近代化遺産調査票（建物）

NO.		分類		種類	
名称		所在地			
所有者		住所	☎		
竣工年		設計者		施工者	
構造・階数 屋根形式・材質 外壁仕上 基礎 その他		大きさ（建坪,敷地面積,間口,桁行,梁行） 資料等 沿革			
現状・保存状態				調査年月日 調査者	

5　埋蔵文化財発掘調査事業

平成15年度の発掘調査事業をふりかえって

平成15年度は13件の発掘調査が行われた。調査の内訳は、国指定史跡古墳の整備に伴う発掘調査１件、国指定史跡古墳の範囲確認調査１件、公共開発に伴う発掘調査が９件、民間開発に伴う発掘調査が２件であった。

公共開発に伴う発掘調査に関しては、区画整理事業に伴うものが４件、工業団地造成に伴うものが４件、地区開発事業に伴うものが１件であった。

民間開発に伴う発掘調査は、老人ホーム建設に伴うもの、畑地整備に伴うものがそれぞれ１件ずつであった。

平成15年度の調査総面積は、27,921.6㎡であり、その内、過年度より継続して実施している区画整理事業に伴う発掘調査、同じく工業団地造成に伴う発掘調査が大きな部分を占め、合計すると全発掘調査の約95％にのぼった。

全13件の調査から主要な調査概要を列記すると以下の通りである。

史跡前二子古墳の発掘調査は、「史跡前二子古墳石室保存修理事業」として全体を次の６工程に分割して実施した。①石室入口部の調査、②羨道上部墳丘面の調査、③石室被覆粘土の調査、④羨道天井部及び側壁の解体調査、⑤石室の積み直し、⑥粘土被覆・墳丘修復。この一連の調査の結果、前二子古墳の石室構造がつぶさに解明され、石室保存修理を実施する基礎資料が得られたことはもとより、初期横穴式石室の構造を知る上でまたとない貴重な資料を得ることができた。

史跡天川二子山古墳の範囲確認調査は、周辺の整備に伴い、周堀部分の保護に必要なデータ収集を目的に実施した。古墳北側と西側に計６本のトレンチ調査を実施した結果、１箇所ではあるがこれまで解明されていなかった北側の周堀範囲の立ち上がりを確認することができた。

元総社小見Ⅳ遺跡、同Ⅴ遺跡、元総社小見内Ⅵ遺跡、同Ⅶ遺跡、同Ⅷ遺跡、及び総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡は、いずれも元総社蒼海地区土地区画整理事業に伴う発掘調査である。６遺跡合わせて約5,200㎡の調査を実施した結果、縄文時代から平安時代までの竪穴式住居跡約70軒、掘立柱建物１棟の他、10数条にのぼる溝跡が検出された。この中には前年度調査でも確認されている国府や蒼海城との関連が想定される硬化面を伴う規模の大きな溝跡が数条含まれる。

五代南部工業団地造成に伴う発掘調査は、五代中原Ⅲ遺跡、五代山街道Ⅰ、同Ⅱ遺跡、五代竹花Ⅱ遺跡、五代木福Ⅲ遺跡の５遺跡で、合計約21,100㎡の調査を実施した結果、縄文時代から平安時代までの竪穴式住居跡113軒、掘立柱建物16棟が検出された。なかでも、五代中原Ⅲ遺跡において古墳時代前期の住居が多数検出され、住居の重複の状況、出土土器の形態、及び昨年度実施した五代中原Ⅱ遺跡との関連から、この地では３～４時期にわたって住居が営まれていたことが解明されたことは貴重な資料となった。

平成１５年度　埋蔵文化財発掘調査一覧表

番号	遺跡名	所在地	調査面積 ㎡	調査原因	調査期間
1	元総社小見Ⅳ遺跡(もとそうじゃおみ)	元総社町地内	５８６．５６	道路整備事業	平成１５．６．１８～平成１５．８．１
2	元総社小見Ⅴ遺跡(もとそうじゃおみ) 元総社小見内Ⅵ遺跡(もとそうじゃおみうち)	元総社町地内	２，２２９	区画整理事業	平成１５．５．２０～平成１５．１０．１４
3	元総社小見内Ⅶ遺跡(もとそうじゃおみうち)	元総社町地内	１，０９３	区画整理事業	平成１５．５．１９～平成１５．９．９
4	元総社小見内Ⅷ遺跡（もとそうじゃおみうち） 総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡 （そうじゃこうとうかづかおおみちにし）	元総社町地内 総社町総社地内	１，２９９	区画整理事業	平成１５．５．１９～平成１５．１１．１４
5	五代中原Ⅲ遺跡（ごだいなかはら）	五代町地内	２，４６２	工業団地造成	平成１５．５．１９～平成１６．３．２５
6	五代山街道Ⅰ遺跡(ごだいやまかいどう) 五代山街道Ⅱ遺跡（ごだいやまかいどう）	五代町地内	６，１９５．３	工業団地造成	平成１５．５．１９～平成１６．３．２５
7	五代竹花Ⅱ遺跡(ごだいたけはな)	五代町地内	５，４５５	工業団地造成	平成１５．１０．１６～平成１６．２．２０
8	五代木福Ⅲ遺跡(ごだいきふく)	五代町地内	６，９９１．５	工業団地造成	平成１５．１０．２～平成１６．２．２０
9	横手宮前Ⅱ遺跡(よこてみやまえ)	横手町地内	６７５	調整池設置	平成１５．１０．２９～平成１５．１２．９
１０	上佐鳥中原前Ⅱ遺跡(かみさどりなかはらまえ)	上佐鳥町地内	５５３	老人ホーム増築	平成１５．７．２２～平成１５．８．５
１１	天川二子山古墳(あまがわふたごやまこふん)	文京町地内	９０．２５	範囲確認調査	平成１５．６．２３～平成１５．７．８
１２	桂萱村６３号墳(かいがやむら)	荻窪町地内	１００	調整池設置	平成１５．１０．２９～平成１５．１２．９
１３	前二子古墳（まえふたごこふん）	西大室地内	１９２	史跡整備	平成１５．７．２４～平成１６．３．１２

平成１５年度　試掘調査一覧表

番号	所在地	開発面積 ㎡	開発原因	調査年月日	調査結果
1	東善町47-5・48-3	３，３５０	農産物加工場建設	平成１５．４．９	遺構は検出されず。
2	箱田町字道下40-1	２，４５１	宅地造成	平成１５．５．９	平安時代の水田跡（箱田道下遺跡）
3	朝倉町249-1	３，１２１	診療所建設	平成１５．５．１４	遺構は検出されず。
4	野中町186-1・187	２，９２２	庫裡建設	平成１５．５．１３	遺構は検出されず。
5	上佐鳥町772	１，１９６	老人介護施設建設	平成１５．６．９	平安時代の水田跡（上佐鳥中原前Ⅱ遺跡）
6	上泉町1858-2他	５，７２５	研修所建設	平成１５．６．２４	遺構は検出されず。
7	総社町総社1838-1	７３０	携帯電話無線基地局建設	平成１５．６．２６	遺構は検出されず。
8	上泉町1870-1・1870-2	３，７０７	老人介護施設建設	平成１５．６．３０	縄文時代の住居跡（上泉風袋遺跡）
9	表町二丁目18-2	１，２６７	老人介護施設建設	平成１５．７．１１	遺構は検出されず。
１０	西大室町1727-1・1728-2	２，０１２	レストラン建設	平成１５．７．３１	遺構は検出されず。
１１	文京町二丁目1-53	９４，３８２	商業施設建設	平成１５．８．１１	遺構は検出されず。
１２	下沖町125	４，２７２	老人介護施設建設	平成１５．８．１９	遺構は検出されず。
１３	天川原町27-1・28	２，５８４	店舗建設	平成１５．１０．１４	平安時代の水田跡（天川原東ノ下一遺跡）
１４	西大室町684-1	２，６６６	宅地造成	平成１５．１０．２４	遺構は検出されず。
１５	亀里町887他	１０，３７７	ビジネス・センター建設	平成１５．１０．２７	平安時代の水田跡（亀里油免遺跡）
１６	鶴光路町56-5	３９４	道路拡幅工事	平成１５．１１．６	平安時代の水田跡（鶴光路練引Ⅱ遺跡）
１７	上青梨子町字尾影116	２，３４７	特別高圧送電線鉄塔建設	平成１５．１１．１２	遺構は検出されず。
１８	清野町字関南146-3他	２，０９５	診療所建設	平成１５．１１．１４	遺構は検出されず。
１９	総社町高井字十郎89-1他	３，３５５	店舗建設	平成１５．１１．１８	奈良・平安時代の住居跡（総社高井十郎Ⅱ遺跡）
２０	箱田町字西田156他	６，５０２	宅地造成	平成１５．１１．１９	遺構は検出されず。
２１	千代田町二丁目１	１，６８９	マンション建設	平成１５．１２．１	遺構は検出されず。
２２	荻窪町100-1・101-1	１，５４７	携帯電話無線基地局建設	平成１５．１２．１２	遺構は検出されず。
２３	元総社町字弥勒1181-3他	２，４７４	店舗建設	平成１５．１２．１８	遺構は検出されず。
２４	駒形町字西築場1420-2他	１，７３７	農産物加工場建設	平成１５．１２．１９	遺構は検出されず。
２５	川曲町509-1他	４，４００	道路新設工事	平成16.2.3・2.4	平安時代の水田跡（川曲地蔵前Ⅱ遺跡）

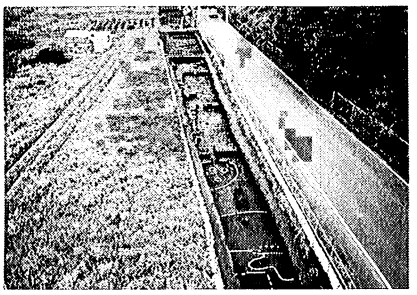
平成１５年度　立会調査一覧表

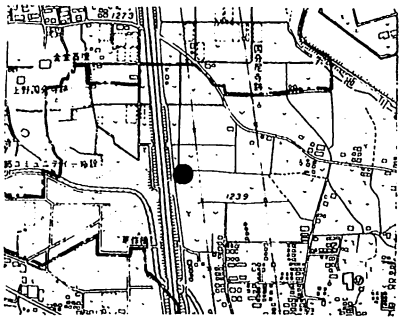
番号	所在地	開発面積 ㎡	開発原因	調査年月日	調査結果
1	大利根町一丁目4-11他	２，４４７	宅地造成	平成１５．４．１５	遺構は検出されず。
2	総社町総社2659-3他	１５０	側溝新設工事	平成15.5.7～5.26	住居跡10軒　鍛冶跡２基　道路状遺構１条
3	大室公園内	９０	排水管敷設	平成15.6.16・6.18	くぼみ　溝３条
4	江木町1072	１，４４７	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ建設	平成１５．７．２９	遺構は検出されず。
5	総社町1630-1他	８８０	橋梁新設工事	平成１５．９．１	遺構は検出されず。
6	上佐鳥町520-2他	２，６６０	体育館及びｸﾗﾌﾞ棟新築	平成１５．１１．１１	遺構は検出されず。
7	天川原町27-1・28	２，５８４	店舗建設	平成１５．１１．２７	遺構は検出されず。
8	上泉町1870-1・1870-2	５，４０３	老人介護施設建設	平成１５．１２．４	遺構は検出されず。
9	総社町高井字十郎89-1他	３，３５５	店舗建設	平成16.1.30・2.2	住居跡５軒
１０	上細井町字荒井2015	３，０８９	老人介護施設建設	平成１６．２．１０	遺構は検出されず。

平成１５年度　埋蔵文化財報告書一覧表

番号	報告書名	遺跡名	発行者	発行年月日	備考
1	元総社蒼海遺跡群 元総社小見Ⅳ遺跡	元総社小見Ⅳ遺跡	前橋市埋蔵文化財発掘調査団	平成16.3.18	15年度調査
2	元総社蒼海遺跡群 元総社小見Ⅴ遺跡・元総社小見内Ⅵ遺跡	元総社小見Ⅴ遺跡・元総社小見内Ⅵ遺跡	〃	平成16.3.18	〃
3	元総社蒼海遺跡群 元総社小見内Ⅶ遺跡	元総社小見内Ⅶ遺跡	〃	平成16.3.18	〃
4	元総社蒼海遺跡群 元総社小見内Ⅷ遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	元総社小見内Ⅷ遺跡 総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	〃	平成16.3.18	〃
5	五代中原Ⅲ遺跡 五代山街道Ⅰ遺跡・五代山街道Ⅱ遺跡	五代中原Ⅲ遺跡 五代山街道Ⅰ遺跡・五代山街道Ⅱ遺跡	〃	平成16.3.18	〃
6	五代竹花Ⅱ遺跡 五代木福Ⅲ遺跡	五代竹花Ⅱ遺跡 五代木福Ⅲ遺跡	〃	平成16.3.5	〃
7	横手宮田Ⅱ遺跡	横手宮田Ⅱ遺跡	〃	平成16.3.18	〃
8	上佐鳥中原前Ⅱ遺跡	上佐鳥中原前Ⅱ遺跡	〃	平成16.3.18	〃
9	天川二子山古墳	天川二子山古墳	前橋市教育委員会	平成16.3.18	〃
１０	市内遺跡発掘調査報告書	各市内遺跡	〃	平成16.3.25	〃

1　元総社小見Ⅳ遺跡





遺跡位置図（前橋市現形図２万分の１）

事業名　緊急地方道路整備事業
所在地　前橋市元総社町地内
調査期間　平成15年6月18日
～平成15年8月1日
担当者　高橋一彦・高坂麻子
調査面積　586.56㎡

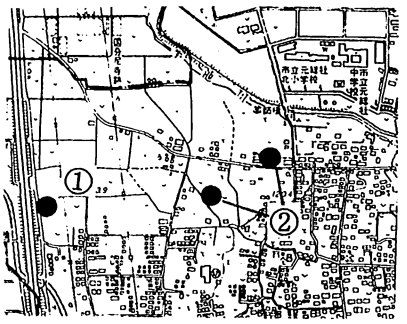
調査の経緯　群馬県高崎土木事務所より、一般県道足門前橋線バイパス（西毛幹線道路　国分寺工区）緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行った。

調査の成果　本遺跡からは主に縄文時代の竪穴住居跡３軒、古墳時代の竪穴住居跡１軒、奈良時代の竪穴住居跡１軒、平安時代の竪穴住居跡24軒、中世の溝跡２条が検出された。これらをⅠ期（７世紀前半以前、律令期以前）、Ⅱ期（７世紀後半～10世紀初頭、律令期）、Ⅲ期（10世紀前半以降、律令期以後）の３つに分類すると、Ⅰ期では縄文・古墳時代の４軒、Ⅱ期では19軒、Ⅲ期では８軒となる。検出した竪穴住居跡を「上野国分僧寺・国分尼寺中間地域」と比較してみると、各年代毎にほとんどの住居で主軸方向や規模に一致がみられる。このことから本遺跡の住居は「上野国分僧寺・国分尼寺中間地域」で検出された集落の縁辺部にあたると考えられる。また、Ⅱ期の住居は重複が激しい。これは国分寺・国分尼寺・推定国府域に近いという地形的理由から、何らかの規制のもとに同じ場所での建て替えが繰り返されたためと思われる。

さらに、本遺跡からは1,200点あまりの瓦片が検出された。これらには「山田」、「當」という押印をもつものや、「伴一」「手」「石」「日」と箆書きするもの、さらには三重弧文、右偏行唐草の瓦当文をもつものがある。これらと類似した瓦が「史跡上野国分寺跡」、「上野国分僧寺・国分尼寺中間地域」から出土しており、上野国分寺跡・国分尼寺のような近接する瓦葺き建物の修復に関わった者たちが、自らの住居の構築材として転用したものと考えられる。

2　元総社小見Ⅴ遺跡
元総社小見内Ⅵ遺跡

元総社小見内Ⅵ遺跡



遺跡位置図（前橋市現形図２万分の１）
①元総社小見Ⅴ遺跡
②元総社小見内Ⅵ遺跡

事業名　土地区画整理事業
所在地　前橋市元総社町地内
調査期間　平成15年5月20日
～平成15年10月14日
担当者　高橋一彦・高坂麻子
調査面積　2,229㎡

調査の経緯　前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行った。

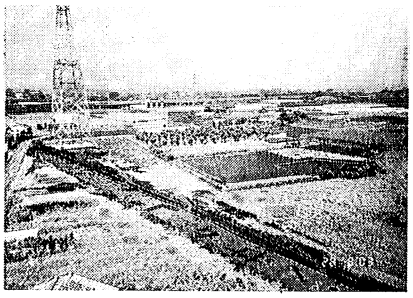
調査の成果　今年度もⅠ期（７世紀前半以前、律令期以前）の竪穴住居跡の検出数が非常に少なく、特に６世紀末～７世紀前半の遺構は５軒のみの検出となった。この調査結果は、過去２年間調査を実施した国府推定域北東側の調査同様、国府成立前には国府周辺には大きな集落は形成されなかったという見解の更なる裏付けとなった。

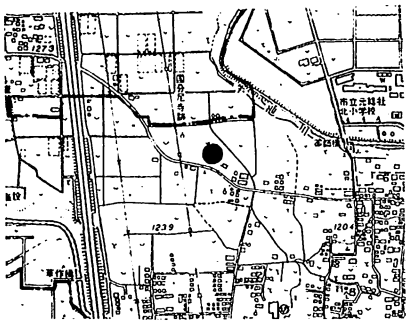
Ⅱ期（７世紀後半～10世紀初頭、律令期）について特筆すべきは、７世紀後半から８世紀後半にかけて、国府創建期以前の竪穴住居跡は、どの調査区からも１軒も検出されなかったことである。それはつまり、この地区が推定されている国府域の縁辺にあたり土地利用上の規制が及んでいたからではないかと考えられる。

また、元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区から検出された溝跡は、水が流れた形跡がないことから、当時の土地を分ける区画の役割を果たしていたと思われる。Ｂ区から検出された溝跡は、水路としての機能が想定できる。これらの溝跡は、覆土に含まれていたFP 軽石等から考えると、おそらく国府・国分寺造営に伴う地割りに関連するものであると考えられている。

Ⅲ期（10世紀前半以降、律令期以後）では、元総社小見Ⅴ遺跡からは、２軒、元総社小見内Ⅵ遺跡Ａ区からは６軒の検出であった。竪穴住居跡の残存状況が悪いことと検出資料が少ないことを踏まえて考えても、過年度の調査同様、この地区では竈の方向や主軸方向などに規格に統一性がないことから、この頃は国府機能の衰退と共に規制が緩和され、縁辺部の集落構造が変質したことが想定される。

3　元総社小見内Ⅶ遺跡





遺跡位置図（前橋市現形図２万分の１）

事 業 名　土地区画整理事業
所 在 地　前橋市元総社町地内
調査期間　平成15年5月19日
～平成15年9月9日
担 当 者　近藤雅順・稲垣慎太郎
調査面積　1,093㎡

調査の経緯　前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行った。

調査の成果　本遺跡は、推定国府域の北西、推定国分尼寺南築垣より約80m南に位置する。

検出された遺構は、竪穴住居跡25軒、掘立柱建物跡１棟、溝跡６条、土壙墓２基、土坑22基、ピット66基である。出土遺物は、加曽利Ｅ式土器・石器類・土師器・須恵器・鉄器・鉄製品・石製品・瓦・古銭等である。

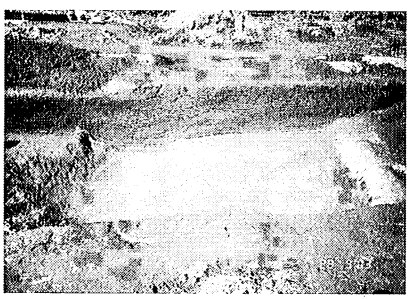
ここでは、検出された遺構をⅠ期（７世紀前半以前：律令期以前）、Ⅱ期（７世紀後半～10世紀初頭：律令期）、Ⅲ期（10世紀初頭以降：律令期以後）に区分してみてみたい。

Ⅰ期では、調査区東側で縄文時代竪穴住居跡２軒と縄文時代土坑１基を検出した。調査区西側は、遺構確認面が黒褐色粘質土で旧地形が低かったと想定されることから、Ⅰ期の遺構は、旧地形の台地部に存在していたと考えられる。

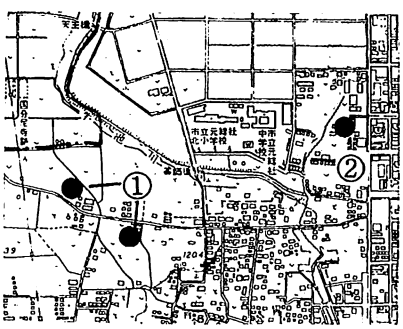
Ⅱ期では、竪穴住居跡16軒・掘立柱建物跡１棟・溝跡２条・土坑１基を検出した。竪穴住居跡は７世紀後半から８世紀前半のものが13軒で、８世紀中頃のものが２軒、９世紀前半のものが１軒である。溝跡２条のうち、１つは90°に曲がる溝跡で、もう１つは調査区の東端から西端まで一直線に走行するもので、他遺跡との関連から区画制のある道路状遺構の一部である可能性がある。土坑は、粘土採掘抗と考えられる。Ⅱ期の遺構は、国府・国分寺と大いに関わりを持つと想定される。

Ⅲ期では、溝跡３条と土壙墓２基を検出した。竪穴住居跡や掘立柱建物跡の検出がないことから、中世におけるこの辺りの土地利用制限が考えられる。

4　元総社小見内Ⅶ遺跡
総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡



元総社小見内Ⅶ遺跡



遺跡位置図（前橋市現形図２万分の１）
①元総社小見内Ⅶ遺跡
②総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡

事 業 名　土地区画整理事業
所 在 地　前橋市元総社町・
前橋市総社町総社地内
調査期間　平成15年5月19日
～平成15年11月14日
担 当 者　近藤雅順・稲垣慎太郎
調査面積　1,299㎡

調査の経緯　前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行った。

調査の成果

元総社小見内Ⅶ遺跡　本遺跡は、推定国府域の北西、推定国分尼寺の南東に位置する。

Ⅱ期の遺構で注目されるのは、竪穴住居跡２軒である。両住居跡からは多量の土師器坏や特殊な須恵器を出土した。このことから、両住居跡が厨屋的存在であった可能性が指摘でき、近くに公的施設があった可能性も考えられる。本遺跡では、国府創建期に住居跡が出現し、国分寺創建期に住居跡が希薄になることから、国府・国分寺との強い関連のもとで集落形成がされてきたと考えられる。

Ⅲ期の遺構で注目されるのは、溝跡２条である。両溝跡は、形状が逆台形で、埋土に As-B を含み、埋没していく過程で何枚かの硬化面がある等共通な性格を有することから同一のものと考えられる。また、過年度調査の遺跡でも同一のものと考えられる溝跡が検出されており、推定国分尼寺から推定国府域へ向かう大きな溝跡の存在が明らかになってきた。

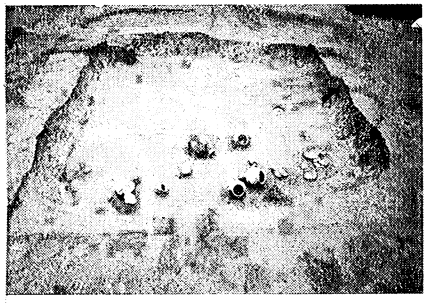
総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡　本遺跡は、推定国府域の北東に位置する。

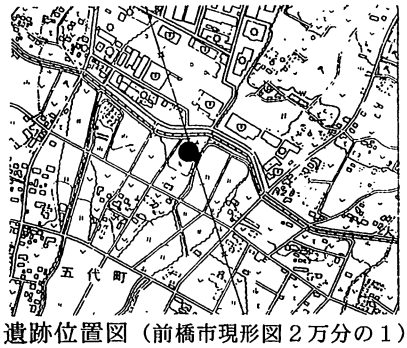
Ⅰ期では、畠跡と溝跡１条を検出した。今回検出した畠跡は、過年度調査の畠跡の続きで、埋土から Hr-FA 降下以降から７世紀代のものと考えられ、溝跡もそれに伴うものと思われる。

Ⅱ期では遺構の検出はなかったが、Ⅲ期では、畠跡・溝跡・井戸跡等を検出した。

本遺跡地は、低い土地で居住域には適さないことから、古くから生産域であったことが想定される。

5　五代中原Ⅲ遺跡





遺跡位置図（前橋市現形図２万分の１）

事業名　五代南部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査
所在地　前橋市五代町地内
調査期間　平成15年5月19日～平成16年3月25日
担当者　倉品敦子・高橋亨　黒岩健一・小林和美
調査面積　2,462㎡

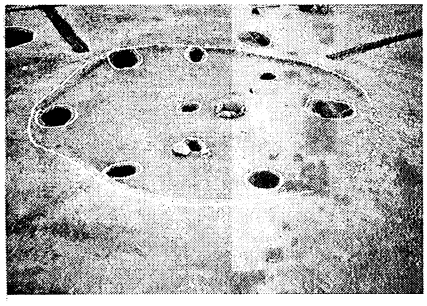
調査の経緯　前橋工業団地造成組合より、五代南部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行った。

調査の成果　本遺跡は、前橋市役所から北東の方向約５kmの赤城火山性斜面上に立地している。今回の調査で、古墳時代前期の竪穴住居跡45軒、土坑55基、柱穴57基が確認された。住居跡は45軒中、27軒に重複が見られ、半数以上が重なり合っていたことになる。

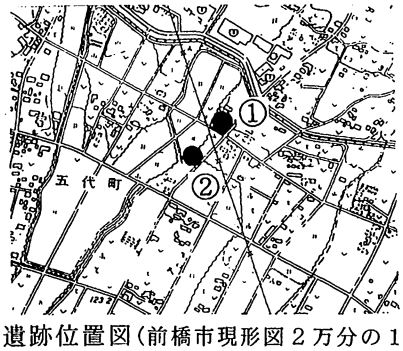
本遺跡の南側に位置する五代中原Ⅱ遺跡でも、ほぼ同時期の住居跡が検出されている。この２つの遺跡は同じ台地上に連続して営まれていることから、一つの遺跡と考えて差し支えないと思われる。２遺跡を通して見てみると、住居跡は北側の五代中原Ⅲ遺跡の方に集中しており、集落の中心は北側にあったものと考えられる。住居跡の重複の中には３軒重なり合っていた例も見られたことから、本遺跡には少なくとも３時期以上にわたって住居が営まれていたと考えられ、住居の重なり具合や土器の様子から２遺跡の住居跡は大まかに３時期から４時期に分けることができるようである。古い時期の住居跡は北側に多く、北側から次第に住居跡が広がってきた様子がみて取れる。

さらに、五代中原Ⅲ遺跡の北側に位置する芳賀東部団地遺跡でも、同時期の住居跡が確認されており、このあたりに、古墳時代前期の集落が広がっていたことがわかる。これらの古墳時代前期の住居跡が検出された地域では、これ以降の住居跡は検出されておらず、人々の生活の地は、次第にもっと南で検出されている集落へと移っていった様子が読み取れる。

6　五代山街道Ⅰ遺跡
五代山街道Ⅱ遺跡



五代山街道Ⅰ遺跡



遺跡位置図（前橋市現形図２万分の１）
①五代山街道Ⅰ遺跡
②五代山街道Ⅱ遺跡

事業名　五代南部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査
所在地　前橋市五代町地内
調査期間　平成15年5月19日～平成16年3月25日
担当者　倉品敦子・高橋亨　黒岩健一・小林和美
調査面積　6,195.3㎡

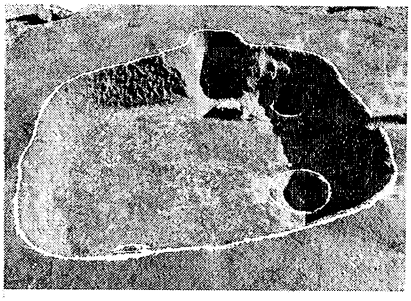
調査の経緯　前橋工業団地造成組合より、五代南部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行った。

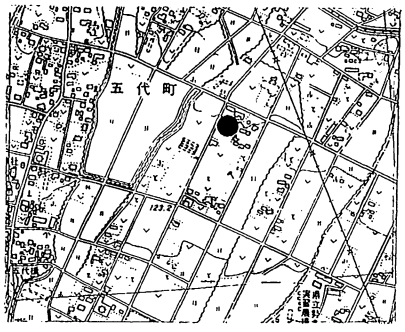
調査の成果　本遺跡は、前橋市役所から北東の方向約５kmの赤城火山性斜面上に立地している。五代山街道Ⅰ遺跡が5,195.3 ㎡、五代山街道Ⅱ遺跡が1,000 ㎡の面積を持つ。

五代山街道Ⅰ遺跡では、縄文時代の竪穴住居跡９軒、土坑８基、古墳時代の竪穴住居跡１軒、平安時代の竪穴住居跡２軒、掘立柱建物跡１軒が検出された。縄文時代の遺構は、前期の住居跡３軒、中期の住居跡６軒で、土坑で遺物が確認できたものはすべて中期に属すると思われる。Ｊ－６号住居跡は敷石住居と考えられ、遺構面まで浅かったため残りが良好ではなかったが、石敷きと埋設土器が検出された。中期の遺構から出土した土器はほとんどが加曽利Ｅ４式期のものと考えられる。古墳時代の住居跡からは遺物がほとんど出土せず、覆土に乱れは見られなかったことから、意図的に遺物が持ち出された可能性が高い。

五代山街道Ⅱ遺跡では、溝跡１条、土坑11基が検出された。溝跡は遺物が出土しなかったため時期は判明しなかった。土坑からは縄文時代中期中葉の土器片が検出された。この遺跡は、南側にある同じく縄文時代中期中葉の土器が大量に出土した五代伊勢宮Ⅳ遺跡と連続しており、これらの土坑は五代伊勢宮Ⅳ遺跡と関連したものと考えられる。ただし、破片のみの検出であったこと、土坑数が五代伊勢宮Ⅳ遺跡と比べて極端に少ないことなどから、五代伊勢宮Ⅳ遺跡を中心とする遺構群の北端に位置しているものと考えられる。

7　五代竹花Ⅱ遺跡





遺跡位置図（前橋市現形図２万分の１）

事業名　五代南部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査
所在地　前橋市五代町地内
調査期間　平成15年10月16日～平成16年2月20日
担当者　齊木一敏・倉品敦子（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）金子正人・荻野博巳（スナガ環境測設株式会社）
調査面積　5,455㎡
調査の経緯　五代南部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行った。なお、発掘調査は埋蔵文化財発掘調査団の立会・指導のもと、スナガ環境測設株式会社が行った。
調査の成果　本遺跡は、土層や出土遺物から縄文時代・古墳時代～奈良時代・平安時代の集落跡である。精査の結果、竪穴住居跡19軒、縄文住居１軒、掘立柱建物跡３棟、竪穴状遺構３軒、周溝状遺構１基、道路状遺構４条、井戸状遺構３基、柱穴236基、土坑95基（縄文土抗19基）、地下式坑１基が検出された。

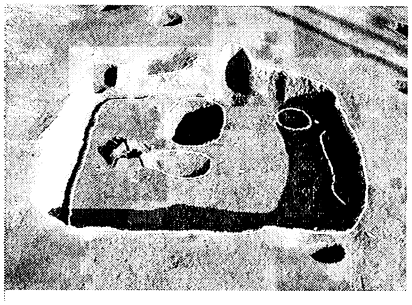
縄文時代住居跡からは、縄文中期と考えられる土器片と打製石斧が出土した。縄文土坑からも深鉢が出土しており、やはり同時期と考えられる。

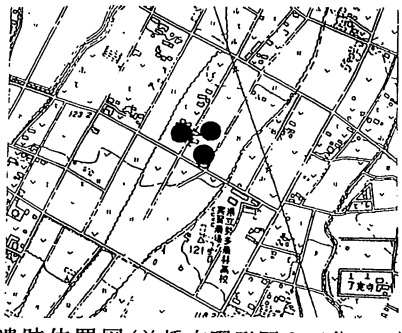
古墳時代の住居跡２軒のうち１軒は竈に袖石を伴った焼失住居で、遺物も長胴甕や紡錘車等が数多く出土した。

奈良・平安時代の住居跡17軒とも竈は東壁に構築されていた。遺物は破片が大部分を占めていたが、緑釉陶器片など特徴ある土器が多く出土した。１軒では皇朝十二銭４枚、不明１枚と大小２個の銅製の鈴等が出土した。竪穴状遺構からは、コモ編み石や須恵器片が出土した。

それ以降も井戸状遺構や地下式坑など現在まで絶えることなく人々の生活が続いていたと考えられる。

8　五代木福Ⅲ遺跡





遺跡位置図（前橋市現形図２万分の１）

事業名　五代南部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査
所在地　前橋市五代町地内
調査期間　平成15年10月2日～平成16年2月20日
担当者　齊木一敏・倉品敦子（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）金子正人・荻野博巳（スナガ環境測設株式会社）
調査面積　6,991.5㎡
調査の経緯　五代南部工業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出され、これを受けて発掘調査を行った。なお、発掘調査は埋蔵文化財発掘調査団の立会・指導のもと、スナガ環境測設株式会社が行った。
調査の成果　本遺跡は、土層や出土遺物から古墳時代から奈良・平安時代の集落跡である。精査の結果、竪穴住居跡37軒、掘立柱建物跡12棟、竪穴状遺構１軒、周溝状遺構１基、井戸状遺構４基、溝跡10条、柱穴294基、土坑73基が検出された。

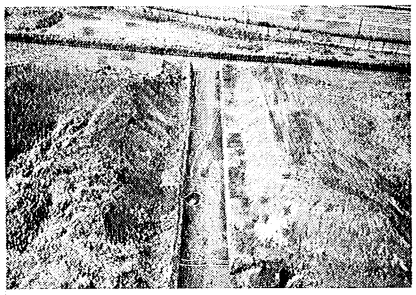
古墳時代では、住居跡11軒が検出され、中には長胴甕が竈焚口部分に使用されている住居も見られた。遺物は土師器甕・坏、須恵器甕、コモ編み石など６世紀後半～７世紀代の遺物が出土した。

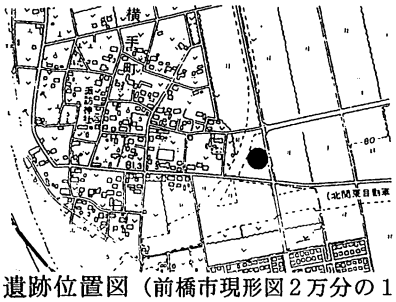
奈良時代では、住居跡22軒のうち、竈構築材として焚口部分に四角形の石が使われていた住居もあった。遺物は土師器「く」の字状口縁の甕・坏、須恵器甕・坏・蓋、石製紡錘車、コモ編み石などが出土した。

平安時代の住居跡４軒のなかには、小鍛冶に使用された炉跡が検出され、鉄滓や鍛造剥片、砥石、鉄床石、鉄製品等の遺物が見つかった。遺物は土師器「コ」の字状口縁の甕・坏、須恵器高台付埦、石製紡錘車、砥石、鉄製品等から９世紀のものが多い。

土坑からは、古銭６枚が出土しており、開元通寶、元祐通寶の渡来銭も含まれていた。

9　横手宮田Ⅱ遺跡





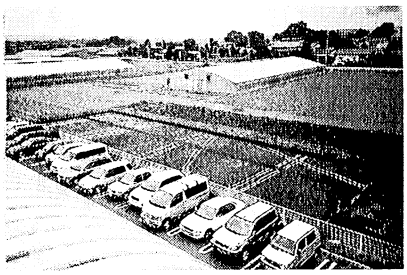
遺跡位置図（前橋市現形図２万分の１）

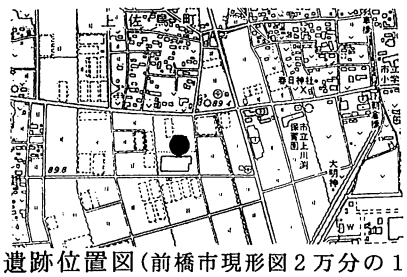
事 業 名　調整池設置工事
所 在 地　前橋市横手町地内
調査期間　平成15年10月29日
～平成15年12月9日
担 当 者　小峰　篤・大﨑和久
調査面積　675㎡
調査の経緯　前橋市南部の亀里町に所在する群馬産業技術センター用地内での調整池設置工事に伴い試掘調査が行われ、その結果、中世水田跡及び As-B 軽石（浅間山：1108年降下）に埋没した平安時代水田跡が確認された。開発行為が調整池の設置というものであるため、保存措置を講ずることが不可能であるので、記録保存を目的とした発掘調査を実施した。

調査地は前橋市南部の田園地帯に位置し、標高80m前後の平坦な土地である。近年、周辺では北関東自動車道をはじめとした様々な開発が行われ、それに伴った発掘調査も数多く実施されている。

調査の成果　本調査では中世水田跡及び平安時代水田跡が検出された。本遺跡周辺では同様な遺構が多く確認されており、特に本地域に広く整備されていたと思われる「条里地割」のあり方を考える上で貴重な資料を得ることができた。検出された畦畔は、東西南北の方位にほぼ一致するなど一定の規格性に基づき形成されていたことが明らかとなった。さらに、検出した畦畔の間隔などから、本遺跡周辺では「長地型」と呼ばれる条里内部の地割りが展開されていたことが想定される。

10　上佐鳥中原前Ⅱ遺跡



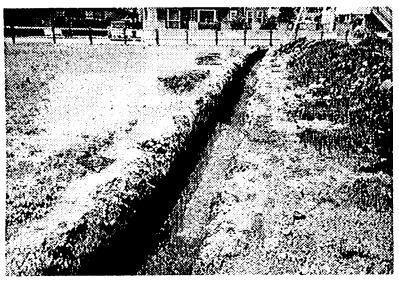


遺跡位置図（前橋市現形図２万分の１）

事 業 名　特別養護老人ホーム増築工事（民間開発）
所 在 地　前橋市上佐鳥町地内
調査期間　平成15年７月22日
～平成15年8月5日
担 当 者　小峰　篤・大﨑和久
調査面積　553㎡
調査の経緯　前橋市上佐鳥町に所在する特別養護老人ホーム「春日の里」増築工事に伴い、試掘調査を実施、その結果 As-B 軽石（浅間山：1108年降下）に埋没した平安時代水田跡が確認された。事業施工者との間で埋蔵文化財に関する取り扱いについて協議した結果、保存することが困難であるため、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意に至った。

調査の成果　本調査では、As-B 軽石により埋没した平安時代の水田跡を検出した。南北方向の畦畔が５本確認でき、いずれも走向が南北の方位にほぼ合致していることから、一定の規格性をもって整備された「条里地割」を構成する遺構であると考えられる。本遺跡地南に隣接する建物の建設時にも調査が行われており、同時期の水田遺構が検出されている。今回の調査と併せて考察した結果、本遺跡周辺では１町（約109m）四方方格内部を区分する「半折型」と呼ばれる土地割りによって水田が整備されていたことが窺える。

11　天川二子山古墳



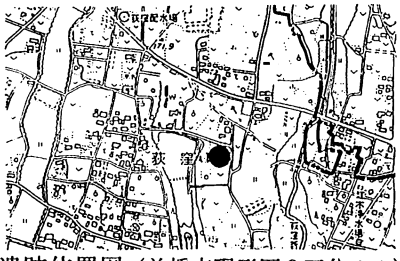
遺跡位置図（前橋市現形図２万分の１）

事 業 名　古墳周堀範囲確認調査
所 在 地　前橋市文京町三丁目地内
調査期間　平成15年6月23日
～平成15年７月8日
担 当 者　小峰　篤・大﨑和久
調査面積　90.25㎡
調査の経緯　天川二子山古墳周堀の存在は、過去に行われた周辺での調査で確認されているものの、墳丘に近い場所では未着手の状態であった。今回は調査可能な古墳北側部分に限定して、遺構保護に必要な基礎データ収集を目的とした周堀範囲確認調査を実施するに至った。

調査の成果　本調査の実施方法は、古墳の保護を目的としたため、トレンチ調査とした。設定したトレンチは前方部前面に直交する方向に３本、墳丘主軸線に対し直交する方向に５本の計８本である。各トレンチとも地表付近は現代の盛土などの攪乱を受けていたが、古墳周堀の存在は明確となった。また、本調査の主目的の一つである古墳周堀の立ち上がり部分も１カ所ではあるが確認できた。古墳周堀を形成する基盤層が外側に向かって緩やかに浅くなり、古墳周堀内部では見られない基盤層直上に自然堆積した土層（漸移層）が出現した。しかし、１カ所のみの検出であったため、古墳周堀の形状にまで言及することはできなかった。

今後、さらに広範囲な調査が行われ、古墳周堀の全容が解明されることを期するものである。

12　桂萱村63号墳



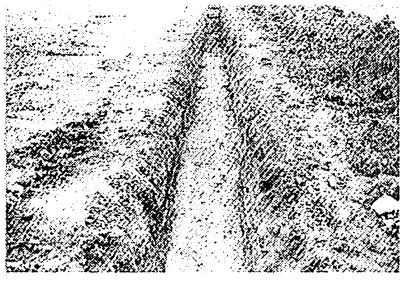
遺跡位置図（前橋市現形図２万分の１）

事 業 名　土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査事業
所 在 地　前橋市荻窪町地内
調査期間　平成15年5月26日～平成15年6月12日
担 当 者　齊木一敏・高山剛
調査面積　100 ㎡
調査の経緯　調査依頼者が果樹園を畑地にしようとしたところ、そこには昭和10年の県下一斉に行われた古墳調査で確認されている63号墳が所在するということが判明し、事前に発掘調査を行うこととなった。
調査の成果　墳丘は赤城南麓にみられる開析谷で画された舌状台地先端部に造られている。台地は北西から南東方向に張り出すが、その先端部を利用して作りつけられた「山寄せ」形式の円墳である。

規模や構築技法から盛土を少なくするという省力化に主眼が置かれた小円墳である。台地先端部に石室を構築する位置を１m以上も掘り込んで石室を据え、背後の高い部分から出た掘削土を盛土として石室を覆う手法は古墳後期後半の群集墳によくみられる技法である。また、旧表土を削っただけの石積みのない前庭部の造りや、そこから出土した土器類も明らかに７世紀後半でも、末葉に近い時期の所産とみられ、鉄製品の鏃や大刀の作りも時期の下がることを示している。

これらを総合すると、本古墳は後期古墳としての特徴を具備していることから、また、出土遺物から７世紀第４四半期に位置づけられる。

13　市内遺跡発掘調査

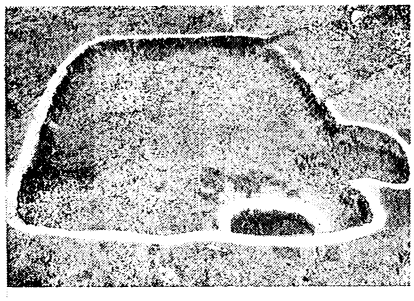


天川原東ノ下一遺跡

事 業 名　埋蔵文化財発掘調査事業（市内遺跡発掘調査事業）
所 在 地　前橋市内
調査期間　平成15年4月1日～平成16年3月31日
担 当 者　高山剛
調査面積　1,762㎡
調査の概要　平成15年度は25件の試掘調査を実施した。遺構の確認はそのうちの８カ所である。８カ所の遺跡のうち２遺跡は現状保存が不可能であったため、年度内に発掘調査を実施、４遺跡については工事立会を実施又は実施予定。残りの２遺跡についてその取扱を現在協議中である。
調査の成果　箱田町(箱田道下遺跡)、上佐鳥町（上佐鳥中原前Ⅱ遺跡）、天川原町（天川原東ノ下一遺跡）、亀里町（亀里油免遺跡）、鶴光路町（鶴光路練引Ⅱ遺跡）・川曲町（川曲地蔵前Ⅱ遺跡）の６カ所では平安時代の水田跡が確認された。

上泉町（上泉風袋遺跡）では縄文時代の住居跡、総社町高井（総社高井十郎Ⅱ遺跡）では奈良・平安時代の住居跡を確認した。
発掘調査　箱田道下遺跡は15年度に前橋市教育委員会が緊急的に発掘調査を行った。上佐鳥中原前Ⅱ遺跡は、15年度に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で発掘調査が行われた。上泉風袋遺跡・天川原東ノ下一遺跡・総社高井十郎Ⅱ遺跡については工事立会を実施した。鶴光道練引Ⅱ遺跡は16年度に工事立会を実施予定である。川曲地蔵前Ⅱ遺跡は、16年度に本発掘調査を実施予定。亀里油免遺跡については保存に向け現在協議中である。

14　公共開発に伴う試掘調査



広瀬木ノ宮遺跡

事 業 名　埋蔵文化財発掘調査事業（公共開発）
所 在 地　前橋市内一円
調査期間　平成15年4月16日～平成16年3月4日
担 当 者　齊木一敏・高山剛
調査面積　626㎡
調査の概要　今年度は７件の公共開発に伴う試掘調査を行った。そのうち、６件で遺跡が確認された。
調査の成果　4月21・22日に行った横手町の調整池設置工事に伴う試掘では、中世と平安時代の畦畔12条と溝跡１条が検出された（横手宮田Ⅱ遺跡、H15本調査）。6月18日には総社町総社の橋梁整備工事に伴う確認調査では総社城内からAs-B軽石降下以降の道路状遺構が検出された（総社屋敷南遺跡、工事立会）。8月4・5日に行われた広瀬町の市営住宅新築工事に伴う試掘調査では、８世紀中頃の住居跡が検出された（広瀬木ノ宮遺跡、緊急調査）。8月21日には六供町の雨水函工事に伴う試掘調査において、平安時代の畦畔１条が検出された（六供南堂木遺跡、工事立会）。10月31日、11月4日には亀里町の都市計画築造に伴う試掘調査では、平安時代の畦畔14条等が検出された（亀里油免Ⅱ遺跡、H16本調査予定）。平成16年2月5・6日、3月4日に行われた前箱田町・川曲町の試掘調査では、川曲町の試掘箇所から平安時代の水田面が確認され、畦畔５条が検出された（川曲島野遺跡、H16本調査予定）。

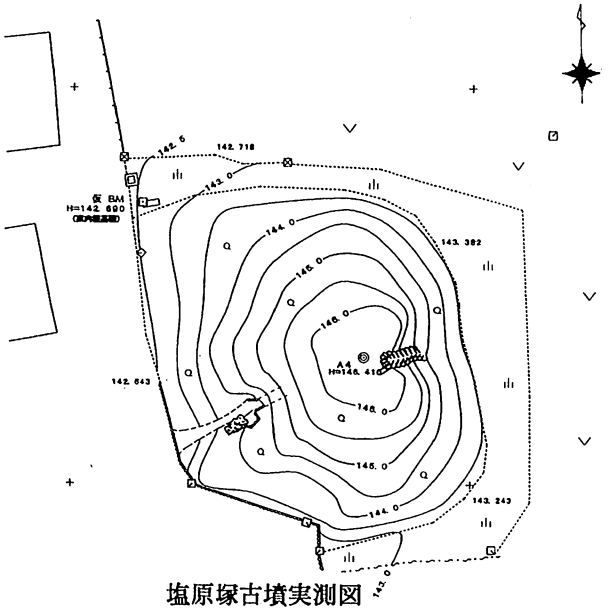
6　遺跡台帳整備事業

（1）遺跡台帳整備

年間を通じ、前橋市内において実施された埋蔵文化財発掘調査や各種確認調査等の成果を整備し、それを基に調査遺跡の台帳化を進めている。これらの資料は、公共、民間等の各種開発事業の対応に使用している。

（2）遺跡測量

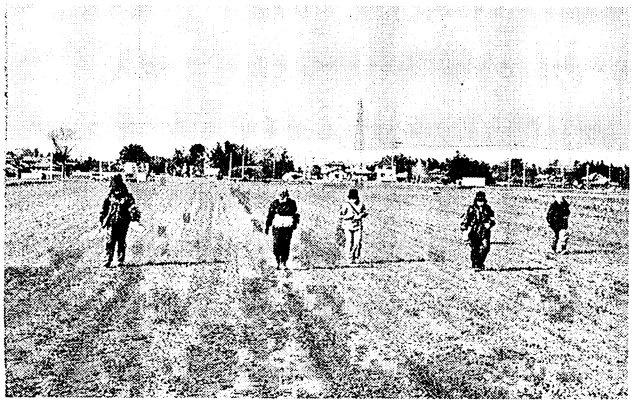
重要史跡等の測量図の作成を行った。平成15年度は、７世紀初頭に造られた円墳で、市指定史跡である田口町の塩原塚古墳の図化を行った。



塩原塚古墳実測図

（3）遺跡分布調査

開発等の事業照会の際、埋蔵文化財包蔵地についてより一層の周知を図るため、「前橋市遺跡分布地図」作成を目的として、今年度から遺跡分布調査を実施した。冬場の農閑期を利用し、腕章及び身分証を携帯した職員並びに臨時職員により遺物採集を行った。今年度は、城南地区を中心に実施した。



分布調査の様子

7　埋蔵文化財資料整備事業

（1）普及パンフレットの作成

平成14年度に前橋市内で実施した埋蔵文化財発掘調査の成果を、市民向けにわかりやすくまとめたパンフレット「前橋の遺跡　平成14年度版」を作成し、市内小中学校や地区公民館、市役所１階市民ロビーなどに配布、埋蔵文化財に対する啓発を進めた。

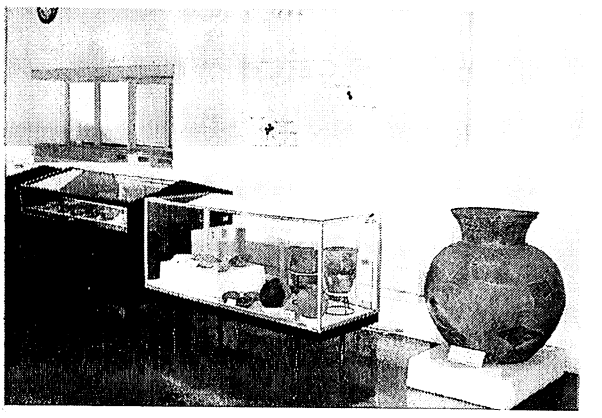
発掘調査の成果をまとめたパンフレット

（2）小中学校資料活用支援

前橋市内の学校への出土遺物をはじめとした文化財資料貸出は、二之宮小学校、荒子小学校、天川小学校の３校に対して行った。

（3）文化財保護課玄関ロビーでの公開展示

文化財保護課の玄関ロビーにおいて、平成14年度の発掘調査出土資料を中心に、展示を行った。縄文時代から平安時代にかけての遺物で種類もバラエティに富んだものとなった。この他に、写真パネル等もあわせて展示した。また、壁面に前橋の地図パネルを作成し、発掘調査地点を表示した。



文化財保護課玄関ロビーでの展示

8　山王廃寺等保存整備事業

（1）山王廃寺等調査委員会

本年度は、12月11日に市庁舎11階で開催された。内容は次の４点である。

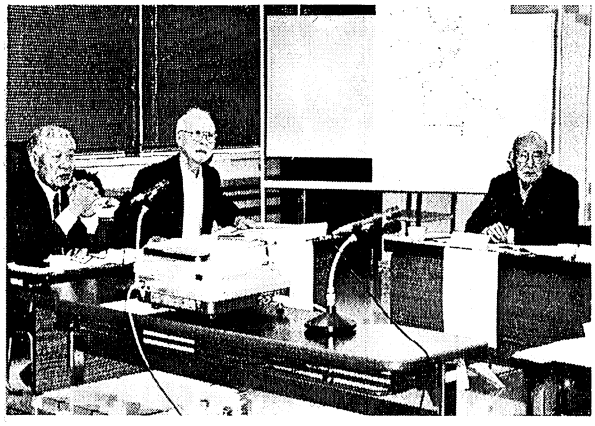
①総社・元総社地区の古代遺跡整備に関する事業の進め方について

②山王廃寺関係の平成15年度事業報告・平成16年度事業計画について

③国府・国分寺関係の平成15年度発掘調査成果について

④総社古墳群については、愛宕山古墳に関しての進捗状況について

委員からは、古代遺跡整備に関する事業の進め方について、概ね承認された。山王廃寺関係の事業については、「調査計画の立案には、明確な目的意識を前提にすべきである」、蒼海地区の発掘調査については、「データをきちんと整理して蓄積していくことが大事である」との意見が出された。総社古墳群については、「愛宕山古墳の石室・石棺はたいへん重要である」という意見が多数を占めた。



山王廃寺等調査委員会の様子

（2）山王廃寺等調査委員会関係事業

山王廃寺関係

・地元説明会実施

・聞き取り調査１実施

・聞き取り調査２実施

国府・国分寺関係

・区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（元総社小見Ⅴ遺跡、元総社小見内Ⅶ遺跡、元総社小見内Ⅷ遺跡、総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡）

・足門前橋線バイパス緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査（元総社小見Ⅳ遺跡）

（3）地元説明会

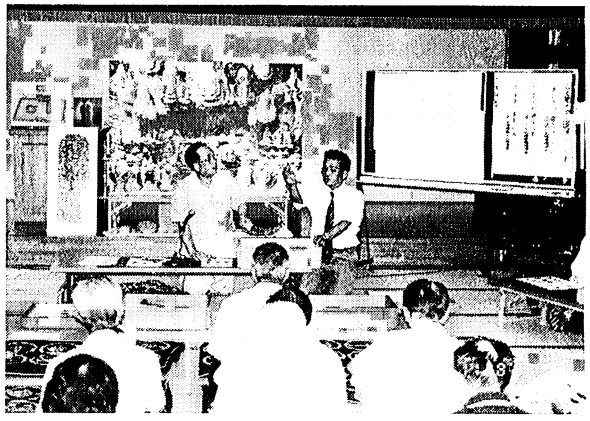
名称　総社町山王地区地元説明会

日時　平成15年８月11日

会場　総社町山王公民館

内容　過去の山王廃寺調査成果を報告するとともに今年度の山王廃寺等調査委員会の取り組みを地元へ周知した。

結果　「小さい頃から心礎がある日枝神社が遊び場であったり、畑仕事をしていると瓦が大大量に出てきたり、また、所々で聞く話から山王廃寺が重要な遺跡であるということはわかっていたが、どのように重要なのかについてはあまり認識がなかった。今日の話を聞いて山王廃寺の重要性について再認識できた」という話をいただくことができ、平成9、11年出土の塑像は話題となった。



地元説明会の様子

（4）聞き取り調査１

日時　平成15年９月24日～30日

目的　山王廃寺に関連する遺物を所持している家を訪問し、どんな遺物を持っているのか見せていただき、記録として写真を撮影する。また、その遺物の出土した位置等の情報を得る。

結果　８軒を訪問し、瓦、土器、鉄製品等の写真を撮り、それら遺物の出土した状況や出土位置、過去に山王地区で出土したその他の遺物について話を窺うことができた。

（5）聞き取り調査２

日時　平成16年２月24日～３月14日

目的　推定中枢域に住んでいる方を訪ね、調査計画作成をしていることを説明し、協力をいただけるか確認した。また、表面採集を実施し、瓦片・土器片等の遺物を採集した。

結果　15軒を訪問し、分布調査に協力するとの回答を得られた。また、遺物をパン箱25箱、総数3,442点を採集した。

9　大室公園史跡整備事業

（1）大室公園史跡整備委員会

大室公園史跡整備事業の推進にあたり、学識経験者及び行政関係者で組織された、大室公園史跡整備委員会（平成元年度発足）において、整備の計画と内容の検討を十分に行いながら事業を実施した。

また、①国指定史跡である４基の古墳（前・中・後・小二子古墳）の保存整備、②赤城型民家と古代住居の整備、③大室古墳資料館の建設の３つの事業に大別した上で、より専門的・実務的に事業を推進する専門部会（古墳整備部会、民家変遷部会、資料館部会）を組織し、部会開催及び相互の連絡調整を図りながら具体的に事業内容の検討にあたってきた。

○平成15年度大室公園史跡整備委員会の経過

平15.11.11　第18回大室公園史跡整備委員会開催
平16. 1. 6　文化庁に平成15年度事業経過報告
平16. 2.10　大室公園史跡整備委員会第13回部会長会議開催
平16. 2.20　第19回大室公園史跡整備委員会開催
平16. 3. 8　文化庁に平成15年度事業報告

（2）古墳整備部会

平成14年度から国庫補助事業として３カ年計画で始まった「史跡前二子古墳記念物保存修理事業」の第２年次にあたる。

平成15年度は、昨年実施したトレンチ調査等の成果をもとに、石室羨道部の解体修理を「史跡前二子古墳石室保存修理事業」として実施した。保存修理事業は、６工程を調査として位置づけ、重要な場面ごとに委員・幹事の指導助言を得ながら事業を進めた。

○前二子古墳石室保存修理事業の概要

［石室入口部の調査：工程１］

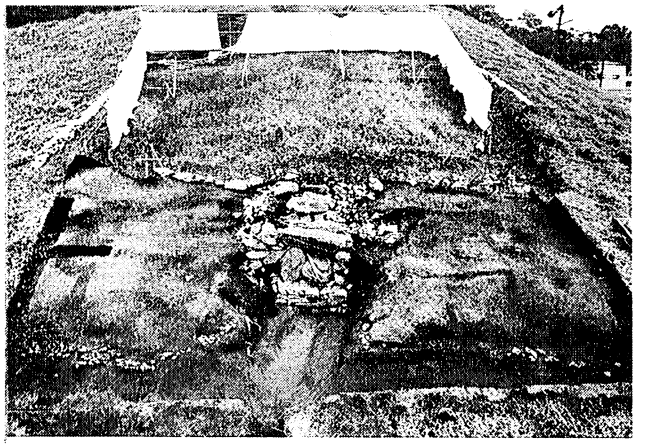
石室入口部の整備に関する基礎的資料の収集のための調査。中段平坦面裾の葺石根石、平坦面縁の円筒埴輪列を確認した。また、羨門と羨門前の墓道状の掘り込みの構造について再調査を行った。

［羨道上部墳丘面の調査：工程２］

南北方向の墳丘盛土の土層観察から石室構築過程を調査した。石室上部が中段平坦面に対してカマボコ状に盛り上がることを再確認した。

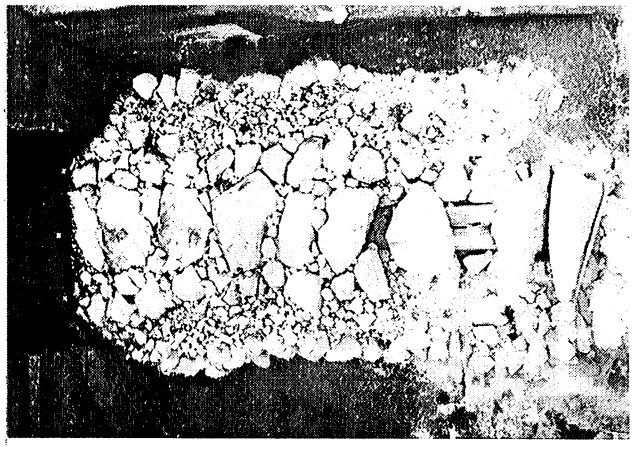
［石室被覆粘土の調査：工程３］

石室被覆状態の調査。粘土被覆の亀裂を検出、ここから雨水が浸入し、石室の傷みの原因と推定された。



石室入口部の調査：工程１（南から）

被覆粘土露出状況：工程２
玄室側に亀裂（右が入口）

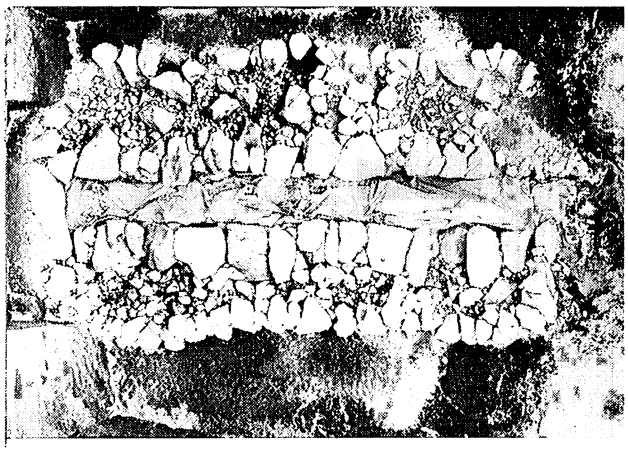


天井石露出状況：工程３（右が入口）

［天井石撤去・羨道部解体の調査：工程４］

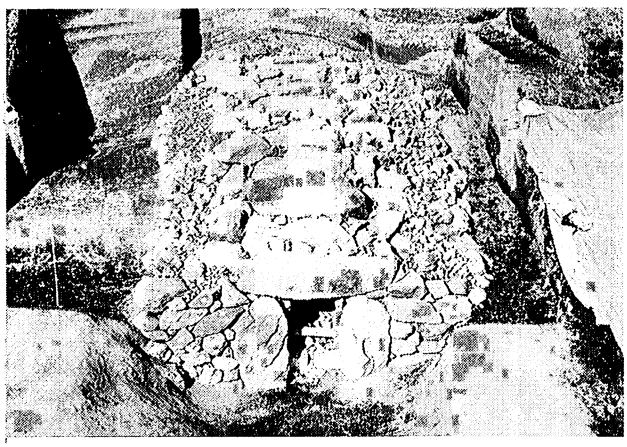
羨道部の解体調査。オリジナルな部分を残す

ことを基本に実施した。天井石を解体し、はらみ出しの大きい部分を中心に側壁と裏込については、解体を行った。側壁石材の大小と積み方との関係から石室の傷みにつながったことや、裏込内に充填してあった土砂の流出が、はらみだしの原因となったことが判明した。また、石室構築の工程や石室西側が石室構築の搬入路となったことも確認できた。



天井石撤去状況：工程４（右が入口）

［石室積み直し：工程５］
調査成果にもとづく羨道部の石室積み直し。東京大学３Ｄ計測の断面をもとに、丁張りを設定し積み直しを行った。破断石材は、「接着アンカー強化」等を行い再利用するとともに、再使用できない石材は新補材を使用した。その際には、2003の「刻印真鍮」を埋め込み表示した。

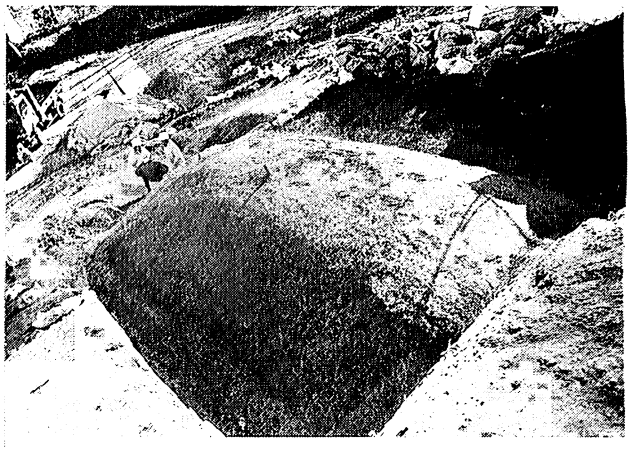


石室修復状況：工程５（南から）

［粘土被覆・墳丘修復：工程６］
調査成果に基づく粘土被覆と墳丘修復。調査費と工程から勘案して、次年度着工まで石室に影響のない粘土被覆まで実施し、その上をシート・土等で養生を行った。

［石室解体・修復に伴う記録］
各工程・調査ごとに記録撮影と三次元デジタルカメラ撮影を実施した。

［石材保存樹脂選定試験］
石室内に塗られているベンガラを保護・保存するために適した樹脂を選定するための試験を行った。



粘土被覆・墳丘修復状況：工程６（北東から）

○前二子古墳工事概要
［作業ヤード整備工］
クレーンの足場盛土・掘削範囲の単管柵等

［石室内支保工撤去］
14年度工事で設置した支保工を解体に伴って撤去。修復に進捗に伴って適宜切梁。完全撤去は、16年度に実施予定。

○平成15年度古墳整備部会の経緯

平15. 7. 8	第１回部会開催
平15. 7.24	保存修理工事開始
平15. 8.28	第２回部会開催（調査部門）
平15.10.21	第３回部会開催
平15.11. 4	第４回部会開催（調査部門）
平15.11.15,16	現地説明会開催
平16. 2. 4	第５回部会開催
平16. 3.12	保存修理工事完了

（３）資料館部会…部会休会中
大室古墳資料館（仮称）建設に向けて民家園北東部に購入した用地の桑の抜根及び整地を行った。
また、今までの発掘調査（４古墳範囲確認調査・内堀遺跡群）等で得られた膨大な出土遺物資料の未整理分について、将来、資料館への展示・収蔵を目的に整理作業を継続して行った。

あ と が き

私どもが携わっている文化財保護行政では、文化財保護法第１条「文化財を保存し、且つ、その活用を図り、もって国民の文化向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献する」に則り、文化財の調査・保護・整備・普及・公開・啓発等に関する事業を行っています。

本市では、平成１５年度も諸事業を進める中で、史跡八幡山古墳の追加指定・公有地化、史跡前二子古墳石室保存修理の実施、遺跡詳細分布地図作製に向けての城南地区の現地踏査の実施等大きな成果をあげることができました。

本市の事業概要をまとめた本報告書が、前橋市の質の高い豊かな文化環境づくりに役立つことを願ってやみません。

文化財保護課長　髙橋　正男

平成１５年度

前橋市文化財調査委員

阿久津 宗 二
梅 澤 重 昭
近 藤 義 雄
松 島 榮 治
安 盛 博

文化財保護課

課　長	髙橋　正男
○文化財保護係	
係　長	松村　親樹
副主幹	中嶋　茂樹
主　査	木暮　良久
〃	丸山　正家
〃	横山　浩之
主　任	小嶋　尚
〃	小暮　啓介
〃	近藤　薫
○埋蔵文化財係	
係　長	真塩　欣一
主　査	鈴木　雅浩
主　任	齊木　一敏
〃	飯田　祐二
〃	高橋　一彦
〃	高橋　亨
〃	近藤　雅順
〃	大崎　和久
〃	須藤　健夫
〃	高山　剛
〃	小峰　篤
主　事	倉品　敦子
〃	高坂　麻子
文化財整備指導員（嘱託）	井上　唯雄
嘱託員	稲垣　慎太郎
〃	黒岩　健一
〃	小林　和美

文化財調査報告書 平成15年度 第34集
平成１６年１１月発行
発行　前橋市教育委員会文化財保護課
前橋市三俣町２－１０－２

表紙　前二子古墳石室保存修理現地説明会